年報

津山弥生の里

第１７号（平成２０ 年度）

2010

津山弥生の里文化財センター

序

一昨年の機構改革により、文化財センター内に文化財課が新設されました。当初、教育委員会事務局から離れたこともあり多少の混乱もありましたが、今年度はそれもなくほぼ順調に文化財保護行政が遂行できたものと思っています。

今年度の特筆事項としては、美作国分寺跡の追加指定、沼遺跡復元住居の全面改築があげられます。

美作国分寺跡は、平成 16 年に国の史跡指定を受けましたが、予定地全域ではなく宅地を含む一部分を残しての指定でありました。しかし、この未指定部分も地権者の皆さんのご協力により、昨年の 7 月に正式に追加指定されました。これにより、美作国分寺跡は主要伽藍を含むほぼ全域が保存されることになりました。

沼遺跡の復元住居は、前回の屋根葺き替えから 17 年余りが経過し、かなり老朽化が進んでいました。また、これまでの復元住居は、遺構が半分しか遺存していない住居址の推定復元であったため、構造的な問題も指摘されていました。そこで、今回の屋根の葺き替えにあったては、やや小ぶりではありますが竪穴遺構が全て残っている住居を参考に復元しました。

復元に当たっては、快く設計を引き受けていただきました広島大学名誉教授鈴木充先生、復元工事経費の一部を負担していただいた津山やよいライオンズクラブ様には、大変お世話になりました。記して厚くお礼申し上げます。

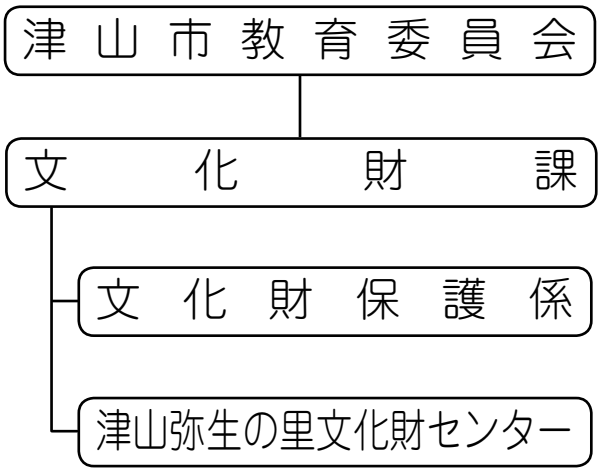
文化財保護行政というものは、決して派手なものではありません。また、市民生活に直結するようなものでもありません。細々とでも長く継続性をもって推進していくことが大切なことだと思います。今後とも市民の皆さんからご意見をお寄せいただき、市民との協働で文化財保護の取り組みができたらと願ってあいさつとさせていただきます。

平成 22 年 3 月 31 日

津山弥生の里文化財センター

所　長　行　田　裕　美

平成 20 年度機構図及び職員配置



課　長　中山　俊紀（文化財センター所長兼務）
参　事（文化財保護係長）
　　行田　裕美（同次長兼務）
主　査　小郷　利幸（同主査兼務）
主　任　仁木　康治（同主任兼務）
主　任　平岡　正宏（同主任兼務）
主　任　乾　　康二（同主任兼務）
嘱託員　野上　恭子
〃　　岩本えり子
〃　　田渕千香子

例　言

1．本書は、津山市教育委員会・津山弥生の里文化財センターが平成 20 年度に実施した事業概要などについてまとめたものである。なお、平成 20 年度から機構改革で、同センター内に文化財課が置かれ、文化財保護と埋蔵文化財の 2 係り体制となった。よって、本号から両部門の事業概要を掲載する。

1．平成 20 年度の埋蔵文化財発掘調査は、小郷利幸、仁木康治、平岡正宏、出土遺物の整理は上記の他、野上恭子、岩本えり子、田渕千香子、指定文化財の保存管理は、乾　康二が主として担当した。本書の執筆は各担当者が行い編集は平岡がおこなった。

1．本書のデータは、ＰＤＦフォーマットで保管している。

目　次

序　i

機構図及び職員配置　ii

例言　ii

第Ⅰ部　津山弥生の里文化財センター事業概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ－Ａ　展示事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
Ⅰ－Ａ－１　入館者数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
Ⅰ－Ａ－２　啓発、普及活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
Ⅰ－Ａ－３　寄贈資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅰ－Ｂ　文化財センター日誌抄（平成 20 年度） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅰ－Ｃ　埋蔵文化財発掘調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
Ⅰ－Ｃ－１　平成 20 年度届出関係一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
Ⅰ－Ｃ－２　現地説明会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第Ⅱ部　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅱ－Ａ　市内遺跡試掘・確認調査報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
Ⅱ－Ａ－１　院庄構城跡確認調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
Ⅱ－Ａ－２　旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
Ⅱ－Ａ－３　各種開発に伴う試掘・確認調査（津山城跡） ・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第Ⅲ部　文化財の保護・管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

Ⅲ－Ａ　文化財の保護 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Ⅲ－Ａ－１　文化財保護委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Ⅲ－Ａ－２　新指定の文化財 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Ⅲ－Ａ－３　文化財防火訓練 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅲ－Ｂ　指定文化財の保存管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅲ－Ｂ－１　国指定文化財 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅲ－Ｂ－２　県指定文化財 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅲ－Ｂ－３　市指定文化財 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅲ－Ｂ－４　その他の文化財 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
Ⅲ－Ｃ　歴史民俗資料館の管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
Ⅲ－Ｃ－１　加茂町歴史民俗資料館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
Ⅲ－Ｃ－２　勝北歴史民俗資料館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
Ⅲ－Ｃ－３　久米歴史民俗資料館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
Ⅲ－Ｃ－４　阿波民具館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

第Ⅳ部　資料紹介・研究ノート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

Ⅳ－Ａ　津山城天守指図に見える柱傾斜についての考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
Ⅳ－Ｂ　美作の狛犬（１）津山市 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
Ⅳ－Ｃ　コロビ山の開発　～安黒一枝の日記から（２）～ ・・・・・・・・・・・・・・・ 42

第Ⅰ部
津山弥生の里文化財センター事業概要

A. 津山弥生の里文化財センター展示事業

1．入館者数

昨年度の入館者数は下表のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大人	142	197	98	62	108	94	108	56	32	50	54	85	1,086
学生	125	324	40	19	58	16	139	70	3	127	55	48	1,024
合計	267	521	138	81	166	110	247	126	35	177	109	133	2,110

表１　平成２０年度総利用者数内訳

2．啓発、普及活動

【刊行物】

『年報　津山弥生の里　第 16 号』

『大蔵池南 2 号鉄穴流し遺構・二つ塚 1 号墳』

（津山市埋蔵文化財発掘調査報告第 79 集）

【講演会・研究会】

第 27 回津山市文化財調査報告会（参加者 50 名）

日　時　平成 20 年 12 月 20 日（土）

場　所　グリーンヒルズ津山　リージョンセンター

内　容

講演 1

「近年の津山市指定文化財（彫刻）の修復事例について」

岡山県立博物館　中田利枝子先生

講演 2

「豊臣秀吉の築城遺跡“韓国の倭城”」

大阪市文化財協会　黒田慶一先生

美作考古学談話会（会員 30 名）

第１回５／24（土）

「美作の郡衙遺跡について」（仁木康治）

第２回７／５（土）

「酒に関するあれこれ」（乾　康二）

第３回９／６（土）

「遺物の胎土分析からわかること」（小郷利幸）

第４回11／15（土）

「中山神社を歩く」（行田裕美）

第５回１／31（土）

「津山城とその縄張り」（平岡正宏）

第６回３／８（土）

「考古学からみた「美作」のなりたち」（中山俊紀）

【速報展】

発掘調査速報展

『津山の歴史を掘るー日上畝山古墳群特集ー』

須恵器（杯・高杯・甕・壷・提瓶・台付壷・器台ほか）

土師器（壷・甕・高杯・鉢）

円筒埴輪、形象埴輪（馬・人物・家・鶏・石見型盾）

石器（ナイフ形石器・槍先形尖頭器・剥片・砥石）

鉄器（鉄鏃・刀）

【収蔵資料の貸し出し・調査等】

［考古資料］

◎奈良文化財研究所和田一之輔さん長畝山 2 号墳の埴輪の資料調査（５月）

◎大賀克彦さん六ツ塚 1 号墳ほかの勾玉・管玉等の資料調査（９月）

◎鏡野町史通史編に使用のため、曾根田遺跡溝 1 断面の写真を貸し出す。（９月）

◎広島大学宮岡昌宣さん芦ヶ谷古墳ほかの陶棺の資料調査（９月）

◎広島大学山手貴生さん稲荷遺跡の有茎尖頭器の資料調査。（９月）

◎岡山県立吉備路郷土館平成 20 年度企画展「見えはじめた備中の国府」展示のため、美作国府跡の須恵器ほかを貸し出す（10 月）

◎雄山閣『季刊考古学第 106 号』掲載のため、日上天王山古墳の写真掲載許可（写真は寿福　滋撮影）（11

月）
◎鳥取県埋蔵文化財センター湯村　功さん有元遺跡ほかの石器の資料調査（2月）
◎京都府立大学笹栗　拓さん万燈山古墳の須恵器ほかの資料調査（３月）
◎くらしき作陽大学澤田秀実さん殿田古墳ほかの銅椀ほか資料調査（３月）

［民俗資料］
◎岡山県立記録資料館平成20年度企画展展示のため姫新線全線記念産業振興大博覧会記念絵葉書を貸し出す（９月）
◎国政　薫さんに糸車を貸し出す（12月）
◎仁木祐介さんにせんたく板を貸し出す（１月）

３．寄贈資料

下記の方から資料の寄贈がありました。寄贈いただいた資料は文化財センター資料として保存活用させていただきます。（敬称略）

【考古資料】
河内道夫（横浜市磯子区）　鬼瓦（美作国分尼寺跡出土）　１点

【民俗資料】
眞木正夫（津山市綾部）　　発動機　１点

B．文化財センター日誌抄（平成２０年度）

４月９日　集合住宅建設に伴う津山城跡確認調査（～11、小郷・平岡）
４月10日　障害者に史跡津山城跡を開放するための登城路警備
４月23日　工業用水道施設建設に伴う二塚１号墳発掘調査（～６月３日、小郷）
５月24日　第1回美作考古学談話会の開催（仁木）
５月30日　奈良文化財研究所和田一之輔さん埴輪（長畝山2号墳）の調査
６月４日　鶴山中学校チャレンジワーク（～６日）
６月11日　中道中学校チャレンジワーク（～13日）

６月15日　日上町内会による日上畝山古墳群草刈
７月１日　圃場整備に伴う下石屋遺跡発掘調査の開始（～９月４日、小郷）
７月５日　第2回美作考古学談話会の開催（乾）
８月６日　津山やよいライオンズクラブによる沼弥生住居址群草刈
８月23日　史跡津山城跡確認調査現地説明会
８月24日　史跡美作国分寺跡関係者説明会
８月26日　岡山県史跡整備市町村協議会総会出席のため真庭市に出張（中山・乾）
８月31日　日上町内会による日上畝山古墳群草刈
９月４日　全国公立埋蔵文化財文化財センター連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議出席のため倉敷市に出張（行田、～５日）
９月６日　第3回美作考古学談話会の開催（小郷）
９月11日　史跡美作国分寺跡草刈（～12日）
10月２日　沼遺跡高床倉庫復元工事開始
10月４日　中山神社本殿保存修理現地説明会（～5日）
10月８日　第1回津山市文化財保護委員会開催、沼弥生住居址群高床倉庫復元工事材料検査（鈴木充先生）

10月15日　院庄構城跡確認調査開始（～11月21日、小郷）
10月30日　岡山県文化財課光永総括副参事院庄構城跡の確認調査を視察
11月15日　第４回美作考古学談話会の開催（行田）
11月16日　院庄構城跡確認調査現地説明会
11月20日　中道中学校郊外学習
11月22日　岡山県文化財保護協会中山神社本殿保存修理現場を視察
11月28日　岡山県史跡整備市町村協議会研修会を津山市で開催
12月１日　沼弥生住居址群高床倉庫復元工事屋根葺き指導（鈴木先生）
12月11日　岡山県文化財保護審議会黒田委員、県文化財課田村参事本源寺調査
12月20日　第27回津山市文化財調査報告会開催
１月９日　沼弥生住居址群高床倉庫復元工事最終検査（鈴木先生）
１月20日　煙硝蔵跡の木を伐採
１月31日　第５回美作考古学談話会の開催（平岡）
２月６日　河本清さん陶棺の調査
２月17日　平成21年度国庫補助事業申請書を岡山県教育委員会に提出
２月20日　文化庁委託事業の民俗技術調査（横野の箔合紙・作州鎌）
２月21日　同（津山ねり天神）
２月24日　衆楽園確認調査（～３月27日、仁木）
２月27日　第２回津山市文化財保護委員会開催
３月７日　第６回美作考古学談話会の開催（中山）
３月８日　史跡美作国分寺跡関係者説明会
３月17日　県文化財課光永総括副参事衆楽園の確認調査を視察
３月19日　史跡津山城整備委員会開催
３月21日　中山神社本殿保存修理現地説明会（～22日）

３月29日　日上町内会による日上畝山古墳群草刈・雑木の撤去

C．埋蔵文化財発掘調査

1．平成２０年度届出関係一覧

埋蔵文化財発掘の届出（法第 93 条）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	面積（㎡）	津山市発番	発信日	指示事項	実施日	備考
美作国府跡	総社 23-11	個人住宅	未定	269.28	津教委文第 21 号	4.10	立会	5.12	遺構・遺物無し
年末墾址	宮部下 1,908-2 ほか	説明板の設置ほか	4．15 ～ 4.19	6,737	津教委文第 31 号	4.14	立会	4.15	遺構・遺物無し
京免遺跡	沼 7-13	個人住宅	未定	220.69	津教委文第 33 号	4.15	立会	6.9	遺構・遺物無し
田熊矢谷口遺跡	田熊 276-1 ほか	個人住宅	未定	355	津教委文第 77 号	5.2	立会	5.27 5.28	遺構・遺物無し
野村沖田遺跡	野村 425-1	宅地造成	未定	1,250	津教委文第 107 号	6.3	立会	6.2	事後確認
中原遺跡	中原 435-1 ほか	個人住宅	9.1 ～ 3.1	499	津教委文第 134 号	6.25	立会	12.8	遺構・遺物無し
美作国府跡	総社 18-8	個人住宅	未定	185.01	津教委文第 143 号	6.30	立会	8.5	遺構・遺物無し
津山城跡	山下 42-2	店舗・個人住宅	未定	240.45	津教委文第 149 号	7.7	立会	7.24	遺構・遺物無し
林田池ノ内遺跡	林田 802-2	駐車場・車庫	未定	254	津教委文第 165 号	7.22	立会	8.25	遺構・遺物無し
まいまい塚１号墳	河辺 457-2	墓地参道補修	未定	55.1	津教委文第 168 号	7.25	立会	7.22	遺構・遺物無し
美作国分尼寺跡	日上 153-3 ほか	個人住宅	未定	610.84	津教委文第 215 号	9.12	立会	10.13	遺構・遺物無し
中原遺跡	中原 57-3 ほか	個人住宅	2.20 ～ 6.20	269.86	津教委文第 378 号	12.15	立会	3.5 5.18	遺構・遺物無し
野村沖田遺跡	野村 425-3	個人住宅	1 ～ 3	230.29	津教委文第 421 号	1.13	立会	1.22 3.12	遺構・遺物無し
野村沖田遺跡	野村 425-10	個人住宅	2 ～ 7.5	175.96	津教委文第 440 号	1.28	立会	2.3 2.16	遺構・遺物無し
福田湯田遺跡	福田 1,233 ほか	宅地造成	5.1 ～	1,070	津教委文第 493 号	3.5	立会	5.18	遺構・遺物無し
勝部国司尾遺跡	勝部 522-18 ほか	宅地造成	5.1 ～ 5.31	488.89	津教委文第 497 号	3.6	立会		事後確認
美作国府跡	山北 36-2	集合住宅	6.1 ～ 9.25	626.32	津教委文第 508 号	3.9	立会	8.28	遺構・遺物無し
年末墾址	宮部下 1,908-2	社の建設	未定	4,070	津教委文第 565 号	3.27	立会	4.13	遺構・遺物無し
津山城跡	大手町 3-4	事務所建設	未定	434.98	津教委文第 568 号	3.27	立会	5.19	遺構・遺物無し

埋蔵文化財発掘の届出（法第 94 条）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	届出者	津山市発番	発信日	指示事項	実施日	備考
下石屋遺跡	宮部上 32 ほか	農業基盤整備	6 ～ 12	津山市山下 53 岡山県美作県民局長 吉岡政昭	津教委文第 85 号	5.14	発掘調査	7.1 ～ 9.4	住居跡、建物跡など

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第 99 条）

遺跡名	所在地	遺跡種別	調査期間	面積（㎡）・原因	津山市発番	発信日	調査担当	備考
二つ塚１号墳	くめ 50-13	古墳	4.22 ～ 6.3	143・ 工業用水施設	津教委文第 56 号	4.24	小郷利幸	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第 79 集
下石屋遺跡	宮部上 32	集落	7.1 ～ 9.4	1,160・ 農業基盤整備	津教委文第 158 号	7.15	小郷利幸	津山市埋蔵文化財発掘調査報告第 81 集
院庄構城跡	院庄 557 ほか	城跡	10.9 ～ 11.21	68・遺跡整備	津教委文第 252 号	10.17	小郷利幸	本書参照
衆楽園	山北 629-5	庭園	2.24 ～ 3.27	70・遺跡整備	津教委文第 486 号	2.24	仁木康治	本書参照

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

種類及び遺跡名	周知・未周知	所在地	調査期間	面積（㎡）・原因・包蔵地の有無	津山市発番	発信日	調査担当	備考
津山城跡	周知	山下 100 ほか	4.9 ～ 4.11	18.6・集合住宅建設・有	津教委文第 524 号	3.18	小郷利幸・平岡正宏	本書参照

2．現地説明会

・史跡津山城跡

平成 20 年 8 月 23 日（土） 約 20 名

・院庄構城跡（地元町内会を中心にした説明会）

平成 20 年 11 月 16 日（日） 約 30 名

第Ⅱ部
調 査 の 概 要

A．市内遺跡試掘･確認調査報告（平成 20 年度）

津山市が平成 20 年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等）でおこなった事業についての概要報告である。調査は、保存に伴う確認調査（院庄構城跡、衆楽園）、民間の開発に伴う確認調査（津山城跡）の３件である。

（１）院庄構城跡確認調査

a. **調　査　地**　津山市院庄５５７番地　外
b. **調 査 期 間**　平成 20 年 10 月９日～
　　平成 20 年 11 月 21 日
c. **調 査 面 積**　約 68㎡
d. **調査の概要**

院庄構城跡は、院庄館跡（国指定史跡）の南 500 m にある中世の平城である。構城跡の築城時期は明確ではないが、『作陽誌』には太平記を引用しその中に「院庄城」という記述があり、これが構城の事とされているので、太平記の頃（14 世紀後半頃）には築城されていた可能性も考えられる。その後、慶長８（1603）年に森忠政が入国の際この城跡を修築しようとしたが、結局修築は断念し鶴山に城を築いた。文化６(1809) 年につくられた『森家先代実録』には、構城について本丸 50 間（約 100 m）四方、東西南北に堀がめぐる記述があるが、その堀は寛永 15（1638）年頃には埋められ田になったようで、本丸の一部も大正時代の姫新線建設等の際に削平されていて、正確な城の範囲が確定されていないのが現状である。

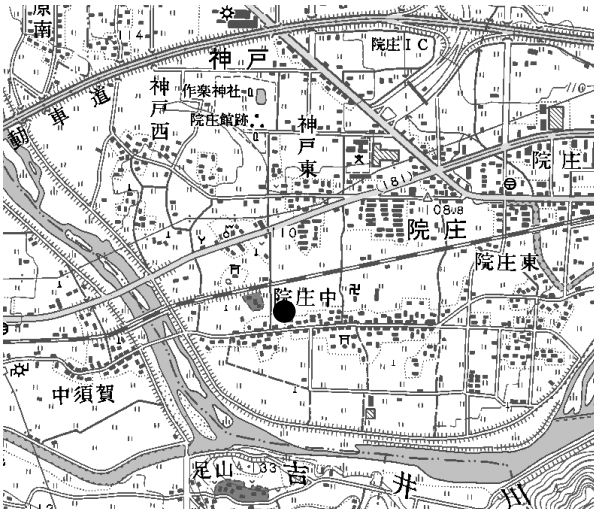
このため、現在埋められている堀の位置を確認し、城跡の正確な範囲を特定することを目的として、昨年度から確認調査を実施している。

昨年度は、北・東・西堀を検出するためにトレンチを入れたが、北堀の一部のみを確認する事ができた。今年度は昨年度検出できなかった東堀と南堀の位置を確認する事と、本丸部分に遺構が存在するのかを目的に調査をおこなった。調査は幅１～ 1.5 m程の試掘溝（トレンチ）を４箇所設定した。調査面積は約 68㎡である。調査期間は平成 20 年 10 月 9 日から 11 月 21 日で、11 月 16 日には現地説明会を開催した。

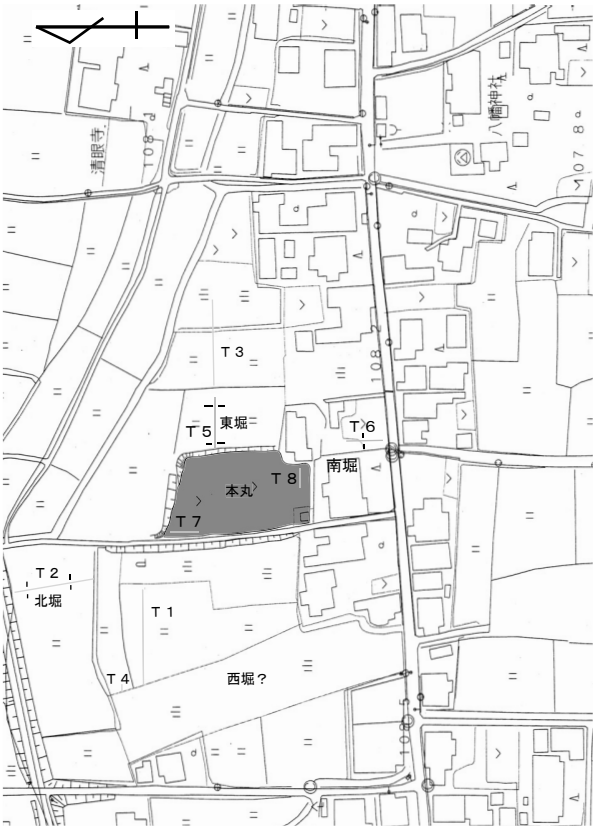
城の堀の位置を確認するために、試掘溝（トレンチ）を２箇所、本丸部分に２箇所設定した。

トレンチ５（Ｔ５）

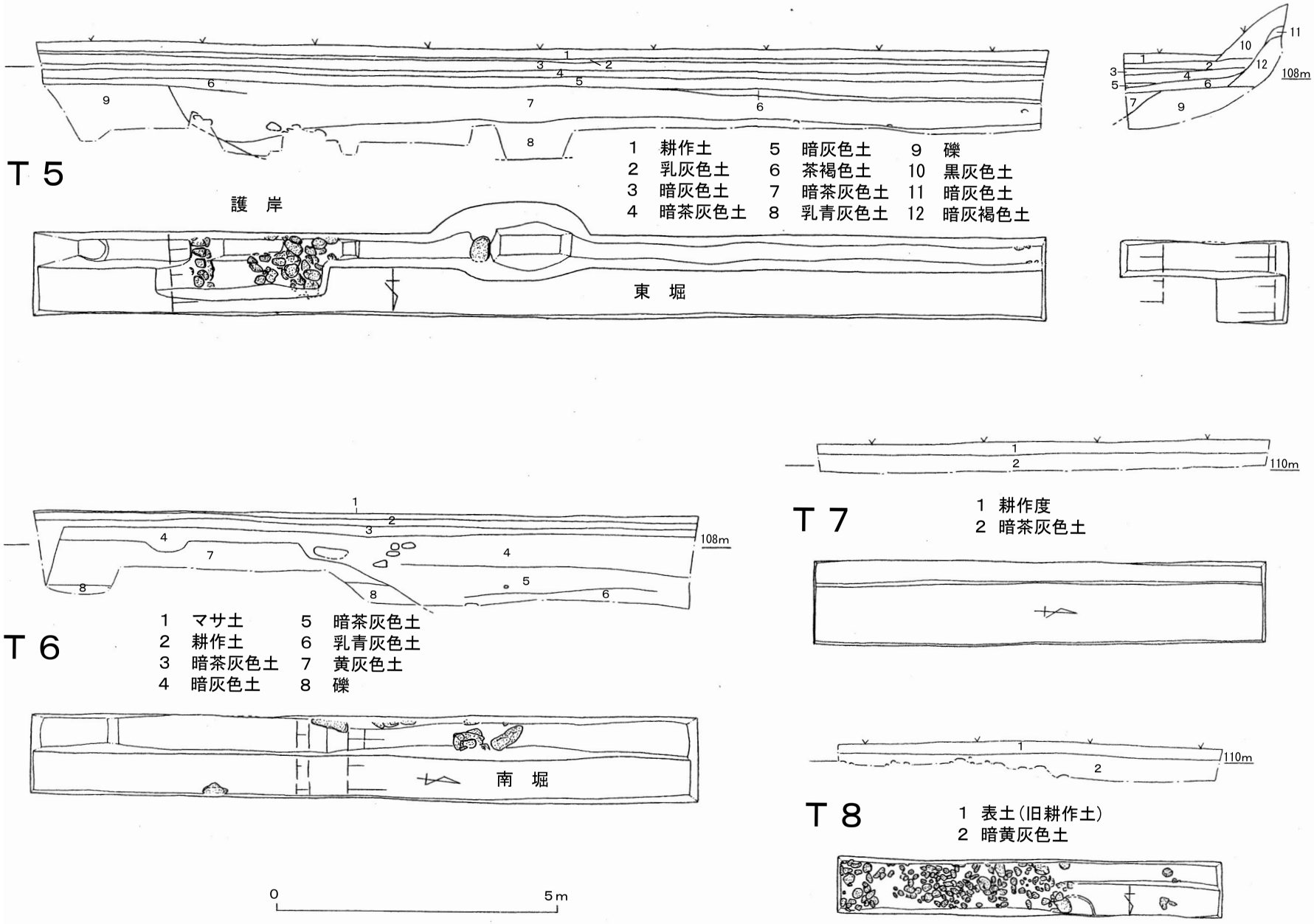
幅 1.5 m、長さ約 21 mのトレンチで、東堀を検出するために設定した。その結果、耕作土等の下は礫層が見られ、この礫層を切る掘り込みを確認した。特に、東側ではこの掘り込みの法面に河原石が数段積まれていて、これはおそらく堀の護岸と思われる。これら石の最下段付近から下の層は粘土質のもので、木片など



第１図　調査位置図（Ｓ＝１：50,000）



第２図確認調査トレンチ配置図（Ｓ＝１：3,000）



第３図　平成 20 年度トレンチ平・断面図（S=1:100）

が出土している。おそらくこの土層は、堀の水が溜まっていた跡でないかと思われる。検出された堀の幅は約17.7 m、深さは約 1.3 mを測る。ちなみに文献では東堀の幅は９間（約 18 m）とあり、ほぼ数値が符号する。またトレンチ西側では本丸部分も一部掘り下げた。その結果、基盤となる砂礫層の高台が元々あり、この上に礫を含む盛土をおこなっている事が判明した。

トレンチ６（Ｔ６）

幅 1.5 m、長さ約 11.8 mのトレンチで、南堀を検出するために設定した。その結果、中央付近で下層の砂礫層を切る掘り込みが検出された。おそらく、南堀の端と思われる。確認された堀の長さ約７m、深さは全掘していないが１m以上はある。この落込み部分の法面側にはかなり大きな石が複数見られ、これら石はもともと護岸に使用されていた可能性もあるが、出土状況や埋土から瓦が出土する事から、堀が埋められる際に廃棄されたものと思われる。ちなみにこの南堀の幅は、文献では 12 間（約 24 m）とあり、今回の堀の端から推測すると、南堀の幅は文献よりもう少し狭くなる可能性がある。

トレンチ７（Ｔ７）

幅 1.5 m、長さ約８mのトレンチで、本丸部分の北側に設定した。その結果、耕作土の下から建物の遺構などは発見されていない。一部分掘り下げた結果、この本丸がトレンチ５で確認したように、礫や砂の層の盛土で造られていることが判明した。

トレンチ８（Ｔ８）

幅１m、長さ約 6.8 mで、本丸部分の南側に設定した。その結果、表土の下から河原石が広範囲に出土した。石のレベルは西から東に向かってやや下がっているようです。石の検出時に瓦や陶器片が出土しているため、新しい時期の可能性があるが、明瞭な遺構の性格は不明である。

e. まとめ

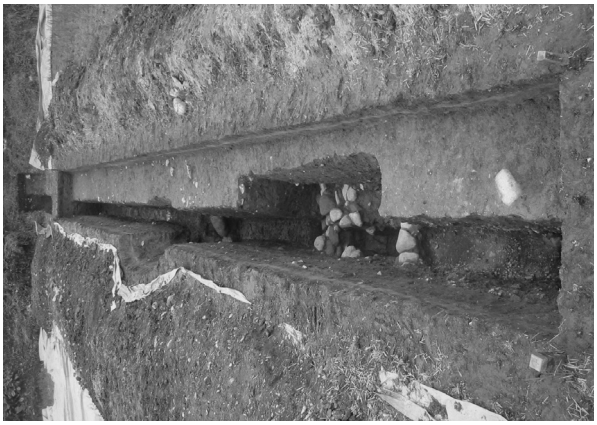
今回の調査では、トレンチ５で東堀を検出した。東堀の外側斜面には河原石を数段積んだ遺構があり、これは護岸と思われる。また、トレンチ６では南堀の一部を検出する事ができた。南堀に東堀同様の護岸があるかは現状では明瞭でない。昨年度の調査で北堀を検出しているので、西堀の検出はできていないが、これまでの調査結果を総合すると、城跡の大まかな範囲が確認できたと思われる。

また、天明２（1782）年の院庄地方絵図（現物は 143 年後の写）には長方形に近い本丸跡が描かれている。この絵図とこれまでの調査結果を比べると、東堀の位置は良く似ている。南堀については家が描かれているため明瞭ではないが、今回の調査結果から現在の出雲街道の北側に南堀があった事になる。

本丸については、トレンチ７では遺構は見られず、トレンチ８では石が出土しているが、これも建物に関係するものではないようである。いずれにしてもまだ不明な部分が存在するので、今後の調査結果が期待される。

（小郷利幸）

遠景（東から）



トレンチ５（東から）

トレンチ５護岸部分

トレンチ６（南から）

トレンチ７（南から）

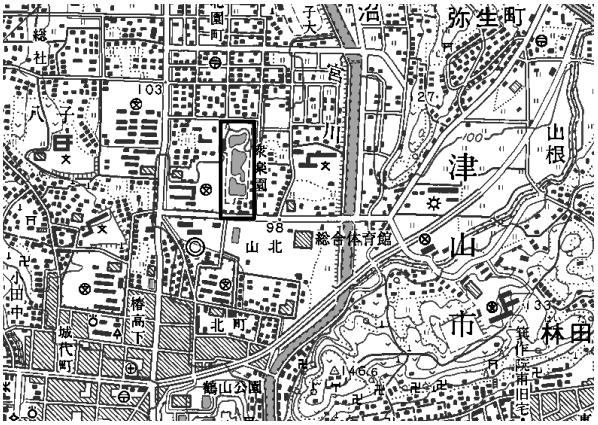
トレンチ８（東から）

作業風景

作業風景

（２）旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査

a. 調　査　地　津山市山北 629-5 番地
b. 調 査 期 間　平成２1 年２月 24 日～
　　平成 21 年３月 27 日
c. 調 査 面 積　約 70㎡
d. 調査の概要



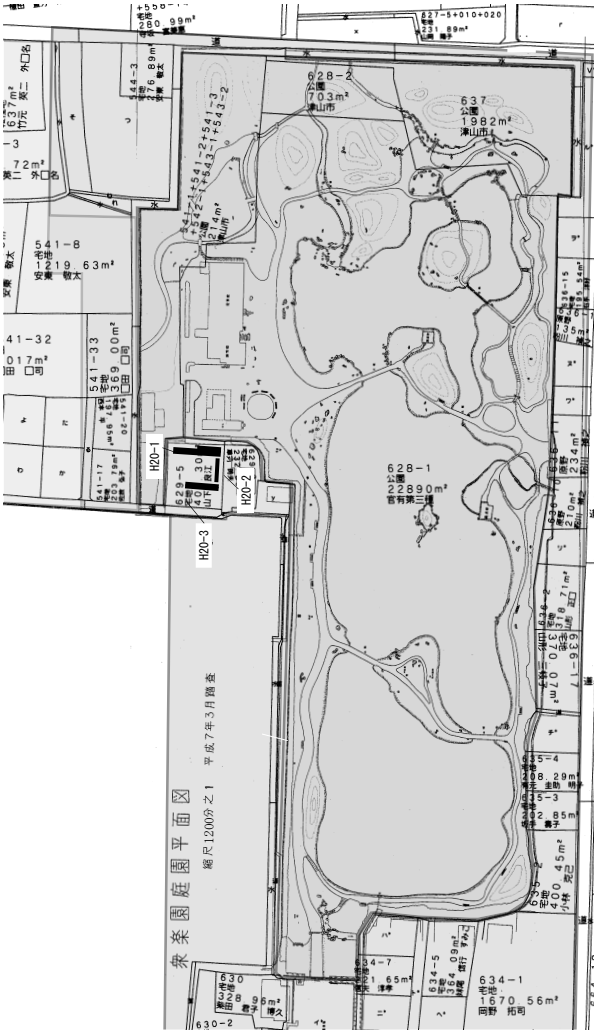
第１図　遺跡位置図（Ｓ＝１：25,000）

旧津山藩別邸庭園（衆楽園）は、平成 14 年９月に国の名勝に指定された。その後、庭園についての基礎資料を得るため、平成 15 年度から確認調査を実施し、平成 17 年度には庭園の将来的な保存のための基本方針である『名勝旧津山藩別邸庭園（衆楽園）保存管理計画』を策定した。これまでの調査成果としては、庭園内に造られた「御対面所」御殿の礎石、庭園の周囲を巡っていた「大溝」の遺構の一部、および西御殿の建物の雨落溝や建物礎石、「曲水」の構造等を確認している。

今年度の調査は、関連建物や境界柵等の確認を目的として実施した。調査期間は平成 21 年２月 24 日～３月 27 日、調査面積は合計 70㎡である。なお、計画では４か所（指定地内１か所、指定地外３か所）の確認を企図したが､指定地外の部分については民地であり、今後の調査が困難なことが見込まれた｡このことから、遺構をより面的にとらえるべく、指定地内に計画していた１か所を減じ、３か所にトレンチ位置を集約し調査に対応した。

トレンチ１

東西方向に設定した長さ 16 ｍ、幅２～３ｍのトレンチである。他のトレンチにも共通するが、本年度の調査位置は旧宅地となっており、建物基礎によって遺構面が広範に破壊されていることが調査前に予測され

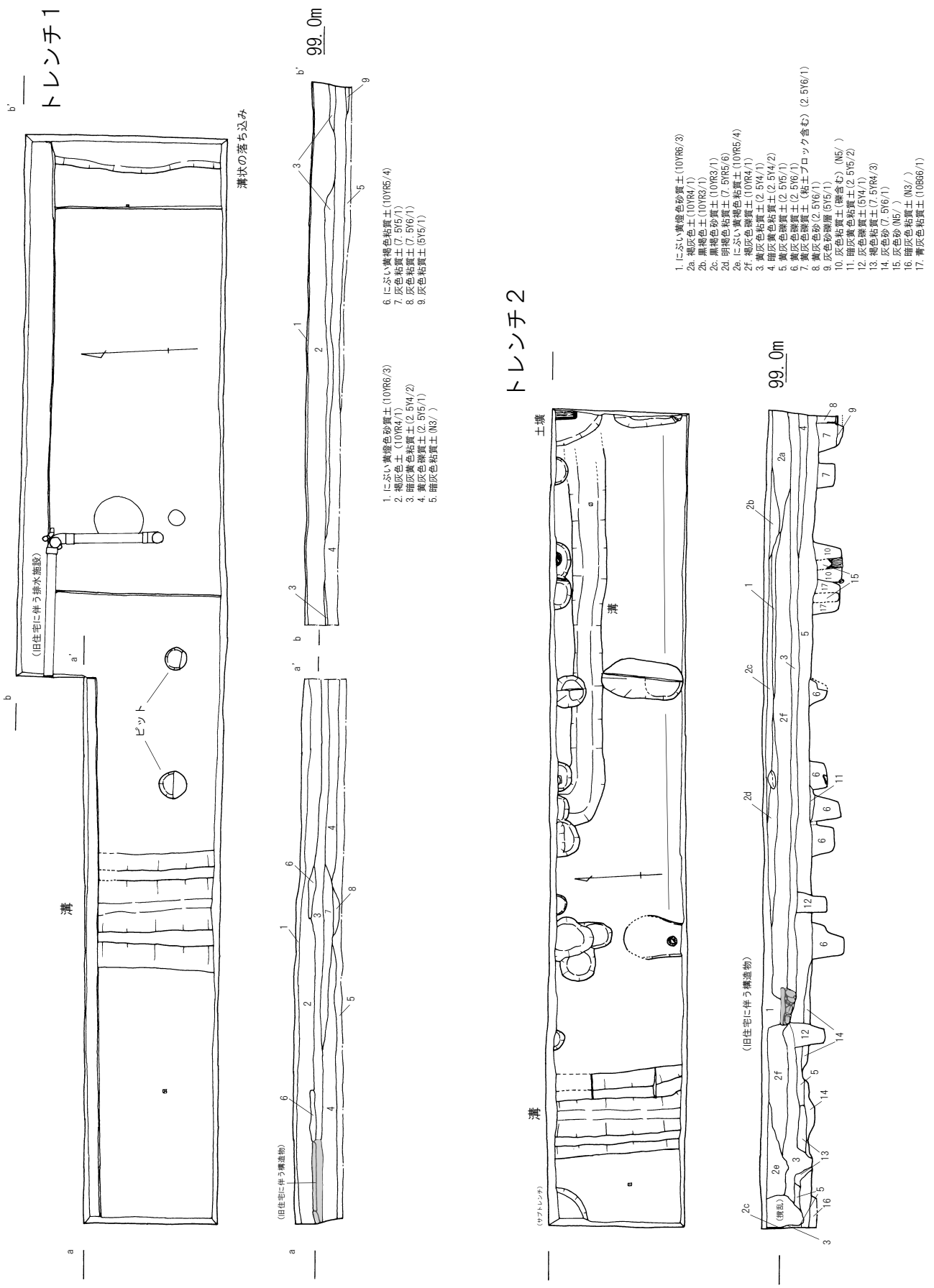


第２図　トレンチ位置図（Ｓ＝１：2,400）

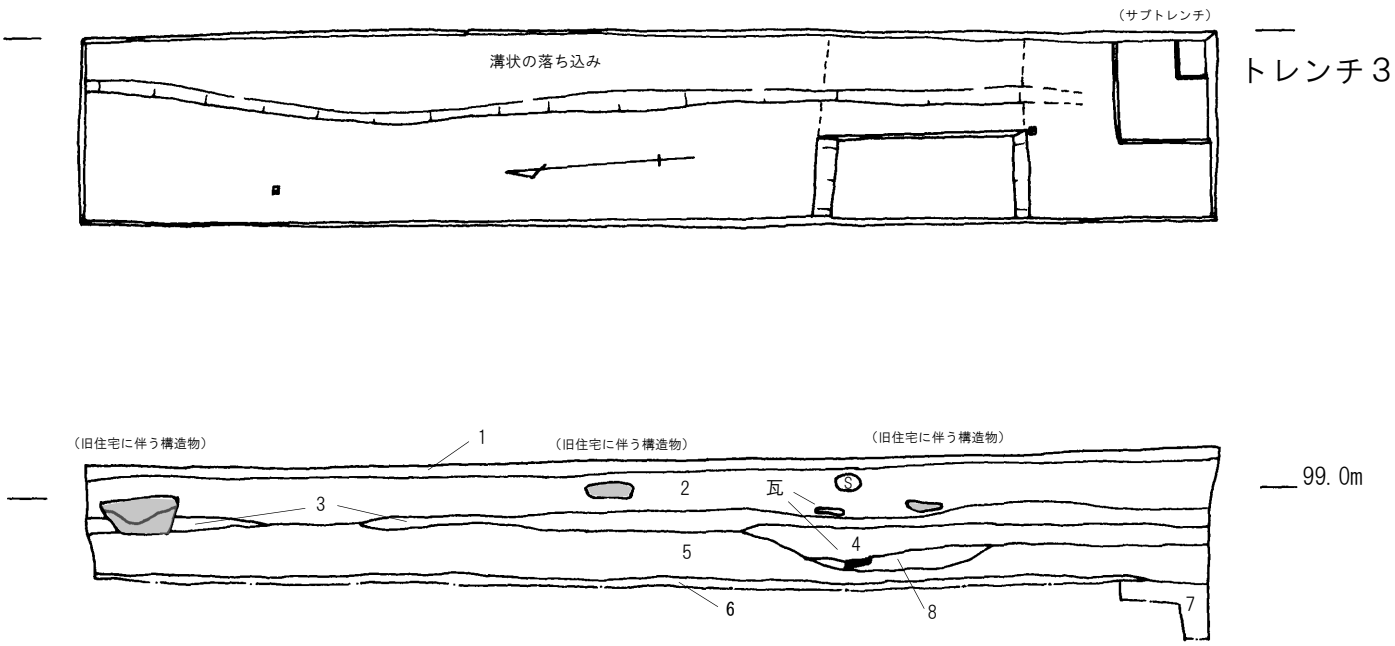
たが、結果として造成土の範囲で建物基礎は収まり、遺構面はほとんど影響を受けておらず、良好に遺構が残存していることが判明した。

本トレンチにおいては、トレンチ東半で溝１条、中央付近でピット２、そして東端で溝状の落ち込みが確認された。溝及び溝状の落ち込みは検出状況からは南北方向を指向し、ピットは直径、深さとも 45cm 程度で間隔は約 180 ｃｍを測るものである。２つは同時期のものとみられるが、西側では検出されなかったことから、一連のものとしてみるならば東方向に続く可能性がある。

いずれも時期を示す出土遺物は皆無で、このため遺構の時期は不明である。トレンチ断面で見ると、トレンチ西半の床面である暗灰色粘質土層から遺構を検出しており、生活面と判断されるが、上層の黄灰色礫質土層（旧耕土下層）も安定したあり方を示しており、一定の生活面であった可能性がある。



第３図　旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査（H20 年度）トレンチ詳細図 (1)　S=1/80



第３図　旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査（H20 年度）トレンチ詳細図 (2)　S=1/40

トレンチ２

トレンチ１と同じく東西方向に設定した長さ 12m、幅２ｍのトレンチである。トレンチ１と同じく暗灰色粘質土層から溝・ピット及び土壙を検出した。溝は２条で、トレンチ西半において検出した南北方向を指向するもの、トレンチ中央において検出した南北方向から屈曲し東方向を指向するものである。前者についてはトレンチ１で検出した溝とその性状が酷似し、連続するものと考えられる。

ピットは大小 13 が確認された。明らかに柱穴と判断されるものがほとんどで、うち２か所には径 15cm 程度の柱根が残存していた。複数の同一規模のものが連続するものもあり、検出状況から判断すると現段階では概ね東西方向に指向すると思われる。また、時期的には数次の時期が考えられるが今後検討を要する。

土壙はトレンチ東北隅で確認された。現段階の表現では土壙としているが、コーナー部分に樋もしくは枡と推定される木組みが残存しており、この施設に伴うものと考えられる。また、出土遺物はピット１か所を除き出土しておらず、検出された遺構の明確な時期は不明である。

なお､トレンチ１と同じく上層の黄灰色礫質土層(旧耕土下層）も安定したあり方を示しており、一定の生活面であった可能性がある。

トレンチ３

トレンチ１－トレンチ２間に南北方向に設定した長さ６ｍ、幅１ｍのトレンチである。トレンチの東側約 1/3 の部分は明らかな落込みが認められ、トレンチ１の東端において確認された落込みが連続するものと判断される。それ以外の遺構は検出されなかった。溝状の落込みに伴う出土遺物はなく、時期は現時点では不明である。

また､トレンチ２において確認された土壙については、その掘り方はトレンチ３には及んでいないことをトレンチ南端に設定したサブトレンチで確認している。

ｅ．まとめ

今年度の調査地点は、現存する「御対面所図」（年代不詳、松平家初期のものと推定されている）によると建物等の記載がある位置にあたっている。本年度の確認調査によって検出された遺構については、その性格や所属時期が現段階で不明であること等、極めて限定的な情報であり、多分に検討の余地があるものの、当該位置に遺構の所在が確認されたことは今後の調査研究を行っていくうえで有益な成果であるといえる。

（仁木康治）

調査前現況

Ｔ－１（南東から）

ピットと溝（Ｔ－１）

作業状況（Ｔ－１）

Ｔ－２（南東から）

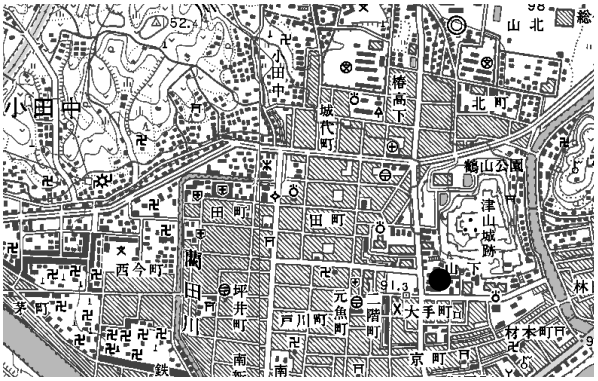
木組み（Ｔ－２）

Ｔ－３（南から）

埋め戻し状況

（３）各種開発に伴う試掘・確認調査（津山城跡）

a. 調　査　地　津山市山下 100 番地　外
b. 調 査 期 間　平成 20 年４月９日～
　　平成 20 年４月 11 日
c. 調 査 面 積　約 18.6㎡
d. 調査の概要



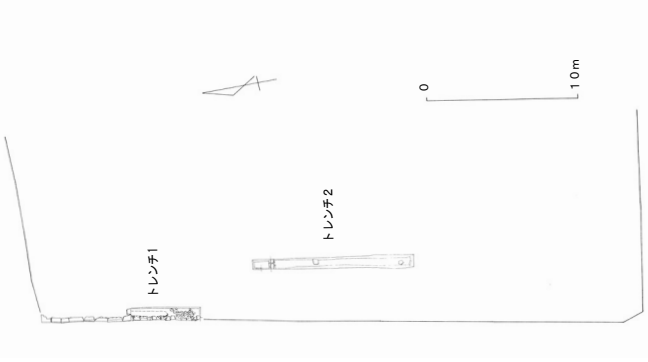
第１図　遺跡位置図（Ｓ＝１：25,000）

津山市山下 100 番地ほかで、古い集合住宅を解体して新しい集合住宅建設が計画された。この建設予定地は、津山城跡の堀の内側で、もともと武家屋敷地であつた場所である。古い集合住宅は、切石による石垣の上に建てられており、この石垣の状況、屋敷地内の状況を確認する目的で調査を実施した。調査は平成 20 年４月９日に人力で掘り下げをおこない、11 日に写真撮影、平面図等を作成し埋め戻した。トレンチは石垣部分（トレンチ１）と屋敷地内（トレンチ２）２ヶ所に設定し、調査面積は約 18.6㎡である。

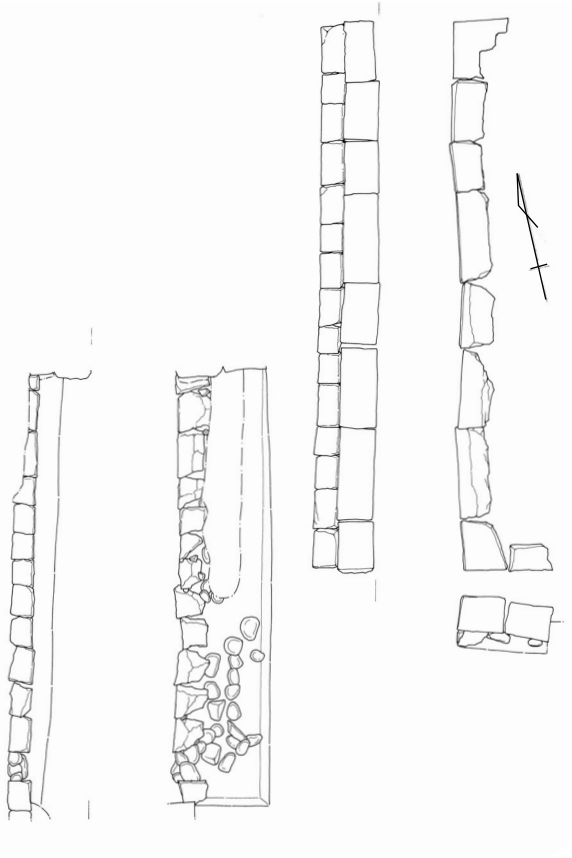
トレンチ１（Ｔ１）

幅１ｍ、長さ 10.2 ｍ程のトレンチである。切石による石垣は２段積まれ、南北 5.8 ｍ程あり、北端の石は北側の面が成形されているため、ここで東に折れるものと考えられるが、続きの石は現存しない。南端は東に折れて１石分あるがその続きの石は現存しない。石垣の下段の石は長さ 30 ～ 50㎝、高さ 25㎝程、上段の石は、長さ 60 ～ 95㎝、高さ 35㎝程で、南端部分は玉石などの根石の上に１段積まれているだけである。石垣の南側を掘り下げた結果、石垣下段の半分程の高さにそろった石が南に続く事が確認できた。さらに調査区外に続くものと推測される。また、裏込めに使用された玉石も南側を中心に見られ、北側は一部かく乱を受けている。

出土遺物は皆無である。



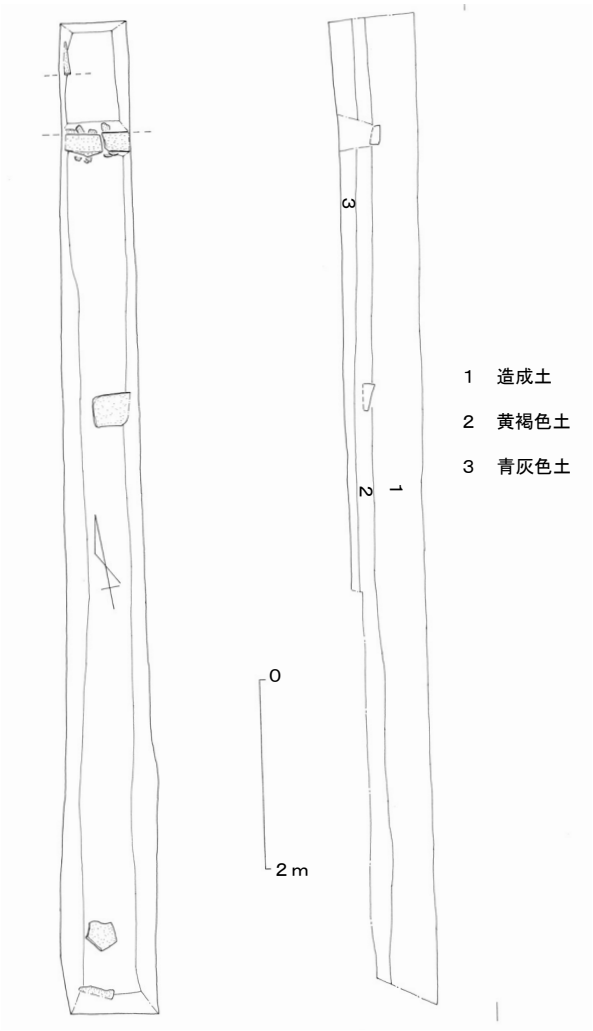
第２図　トレンチ位置図（Ｓ＝１：500）



第３図　トレンチ１平・断面図（Ｓ＝１：80）

トレンチ２（Ｔ２）

幅 0.8 ｍ、長さ 10.5 ｍのトレンチである。現屋敷地の造成土（土層１）が約 60㎝程あり、その下から旧屋敷地に伴うと思われる遺構が検出された。トレンチの北側では玉石の上に北面が整えられた方形の石が検出され、現状では２石が東西に並んでいる。この北側にも南面が整えられた同様な石が一部で見られ、両者の間が 65㎝程あり、これは溝の一部と考えられる。この溝は東西方向のもので、建物などに伴うものと推測される。また、この溝の南 2.5 ｍには平らな石があり、これは建物の礎石の一部と思われる。トレンチの南端



第４図　トレンチ２平・断面図（S＝１：80）

にも同様な大き目の石が数点見られ、礎石の可能性もあるが、現屋敷地の造成時に動かされているものと推測される。土層２は旧屋敷を造る際の整地土と思われ、土層３は自然堆積の層である。

出土遺物は皆無である。

e．まとめ

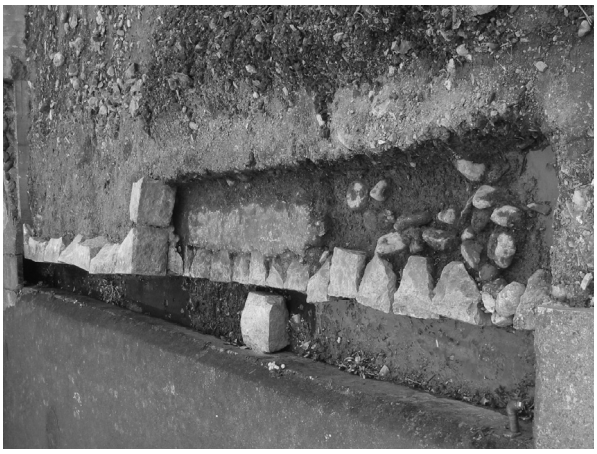
トレンチ１では、石垣の調査をおこなった。現状では、石垣は２段積まれ南北両端で東側に折れているようであるが、詳細は不明である。さらに南に石垣が延びていた可能性がある。

トレンチ２では、東西方向の溝を検出した。現屋敷地の中央付近にあり、ある時期トレンチ１の石垣やこの溝に伴う建物などが存在していたものと推測される。ただ出土遺物が無いため時期の特定にはいたっていない。

この他建物に関連する礎石と思われる石も複数見られた。ただその多くは後の現屋敷地造成時に大きくかく乱を受けているものと思われる。

（小郷利幸）

調査前（北西から）



トレンチ１（南から）

トレンチ２（北から）

第Ⅲ部
文化財の保護・管理

Ａ．文化財の保護

１．文化財保護委員会

第１回 10 月８日、第２回２月 27 日

２．新指定の文化財

《登録有形文化財》

ＪＲ因美線美作滝尾駅舎

（11 月 10 日付け）

《県指定文化財》

本源寺霊屋、表門及び津山藩主森家一門墓

（3 月 10 日付け）

《市指定文化財》

中山神社惣神殿

大隅神社昭徳館

地蔵院愛宕堂

千磐神社のスギ

（10 月 30 日付け）

地蔵院本堂・愛宕堂附棟札

（3 月 26 日付け）

3．文化財防火訓練

1 月 25 日　正覚寺

B．指定文化財の管理

1．国指定文化財

《建造物の修理等》

中山神社本殿保存修理工事（2 年次、現地説明会：10 月 4 日～ 5 日、3 月 21 日～ 22 日）

中山神社・鶴山八幡神社・総社防災設備保守点検

《史跡の公有化、整備》

美作国分寺跡の公有化事業（4 年次）

・土地 6 筆の購入、建物移転補償、草刈

津山城跡の保存整備事業

・天守曲輪西半整備事業（3 年次）

・切手門跡の発掘調査

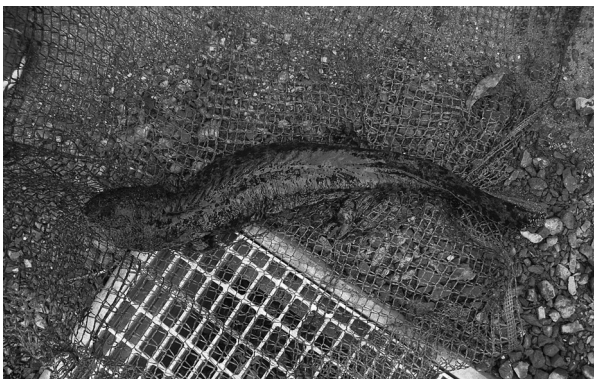
・「津山城だより No.13」の刊行

・整備委員会の開催：7 月 20 日、3 月 19 日

《史跡の管理、草刈等》

美和山古墳群の管理、草刈・剪定

三成古墳の草刈



捕獲したオオサンショウオ

院庄館跡の管理・草刈

《天然記念物の管理》

トラフダケ自生地の管理

オオサンショウオの捕獲（3 匹）

《有形民俗の防災点検》

田熊の舞台防災設備保守点検

《説明板の設置》

高野神社木造随身立像ほかの説明板

2．県指定文化財

《史跡の草刈》

日上天王山古墳・日上畝山古墳群草刈

久米廃寺跡草刈

矢筈城草刈

岩屋城草刈、

《天然記念物の管理》

尾所の桜の管理

《無形民俗の補助》

新野まつり、八幡神社・物見神社の花祭りの保存伝承への補助

3．市指定文化財

《史跡の草刈等》

沼遺跡草刈・剪定、高床倉庫の復元

井口車塚古墳草刈

中宮 1 号墳草刈

飯塚古墳草刈

正仙塚古墳草刈

煙硝蔵跡草刈

茶屋の一里塚管理

神楽尾城草刈・倒木の処理

西登山金屋寺草刈
河辺上之町草刈
《建造物の修理》
高野神社随身門覆屋の修理
《説明板の設置》
千磐神社の臥龍藤・スギの説明板設置
西村古墳群説明板の修理
奥の前古墳説明板・案内板設置

４．その他の文化財

津山中核工業団地内古墳（一貫東１号墳）公園草刈

Ｃ．歴史民俗資料館の管理運営

１．加茂町歴史民俗資料館

利用者数　２７８人、社会福祉法人津山市社会福祉協議会に管理を委託

２．勝北歴史民俗資料館

利用者数　　８７人、消防用設備保守管理委託、清掃・燻蒸・整理作業

３．久米歴史民俗資料館・民具館

利用者数　２４４人、消防用設備保守管理委託

４．阿波民具館

利用者数　把握できず、大高下ふるさと村運営組合に管理委託

第Ⅲ部
資料紹介・研究ノート

津山城天守指図に見える柱傾斜についての考察

乾　貴子

はじめに

天守は近世城郭を象徴する建物であり、今日では日本の主要都市のランドマークとなっている。特に地方都市にとって城跡は景観を形成する中核であり、城下町のシンボルとして、観光資源として、全国で戦前に6棟、戦後に49棟の天守が復元されている[註1]。現在の津山城天守跡には土台の石垣が残るのみであるが、かつて昭和11年（1936）に天守を復興している。ただし、この時の天守は博覧会を開催した際に建設された模擬天守で、終戦直前の昭和20年に撤去された。なお、津山城の築城は慶長9年（1604）から元和2年（1616）にかけて行われ、天守以下の建造物は廃城令により明治7年（1874）に破却されるまで存続した。天守は4層5階・地下1階の総塗籠漆喰の層塔型天守であった。最近の発掘調査によると、天守台石垣の遺構に築城段階の試行錯誤の痕跡が確認されており、全国的な築城ラッシュにあたる当時における築城技術の進歩はかなり著しかったことが明らかになっている。

津山城の建築意匠に関する考証については、古くは藤岡通夫（1969年）による研究があるが、その後は鈴木充・三浦正幸による立体模型の製作（1990年）や、鈴木充監修のコンピューターグラフィック（津山城築城400年記念事業実行委員会、2003年）などがあり[註2]、復元図は次第に精緻なものとなってきている（敬称略）。こうした、建造物の復元を試みる際に重要な手がかりとなるのが絵画史料である。津山城天守を描いた絵図類の中でも、『津山城天守地絵図』および『津山城天守指図』（津山郷土博物館所蔵）は軸組みモデルの復元を可能にした貴重な史料である[註3]。これは藩の作事方が幕末の弘化4年（1847）に作成したもので、史料的価値は高く、城郭史・建築史における第一級の絵図として知られている。同史料が基礎史料となり、関係する諸史料や古写真等との照合によって、立面図、立体模型、C.G.などのさまざまな手法で復元図が表現されてきた。しかし、同史料は建築意匠に関する考証で活用されてきたものの、下げ振り検査の測定値を詳細に記録した実測図的な要素の強い史料である点についての検討はあまり重視されてこなかった。

さて、幕末の津山城天守で行なわれた下げ振りとは、紡錘形の錘を垂らして水平・垂直方向の柱の変位を計測し、その測定値と柱の高さから土地・家屋の傾斜角度を測定する検査である。そのため、『津山城天守地絵図』には、下げ振りの測定値のほか、柱の配置・寸法・材質や、長押・鴨居・窓・狭間・敷居・畳数・板敷面積・間取り等の内部意匠に関する詳細な書き込みが見られる。

そこで、本稿では『津山城天守絵図』および『津山城天守指図』は下げ振りの測定値の記録であるという史料の性格を踏まえ、その検査結果について考察した。また、あわせて津山城天守の建築意匠に関する諸史料についても概観し、史料間の比較を試みた。

1．柱配置と柱傾斜について

絵図作成の背景については、藩の勘定方の日記である『勘定奉行日記』に記録が見られる。それによると、

一、作事惣呑込ゟ左之通伺書差出伺済
御天守近来之処ニ而曲木目立候様相覚申候然共何程ト申曲も難見定候ニ付重々ニ而水盛并下ヶ振致置一両年之曲見定申度少々ニ而も動付候様相見候ハヽ其上御修復相成可申奉存候此段奉伺候
（『勘定奉行日記』弘化4年10月13日条）

と記されている。この記事によって、天守の柱に褶曲が現れたことから、水盛と下げ振りを行なったこと、その際に検査期間を2年に設定し、柱傾斜の進行状況

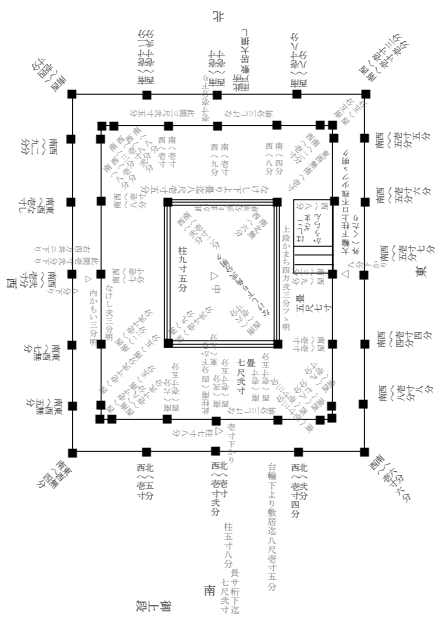
註1　高瀬要一「近世城郭における天守閣復原」（『文化財論叢Ⅲ　奈良文化財研究所創立50周年記念論文集　奈良文化財研究所学報第65冊』（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所、2002年）

註2　藤岡通夫『美作津山城復元考』（『近世建築史論集』昭和44年，中央公論美術出版）、『津山城復元模型の制作過程』（津山郷土博物館紀要第2号，1990年）、鈴木充監修『よみがえる津山城』（津山城築城400年記念事業実行委員会、2003年）

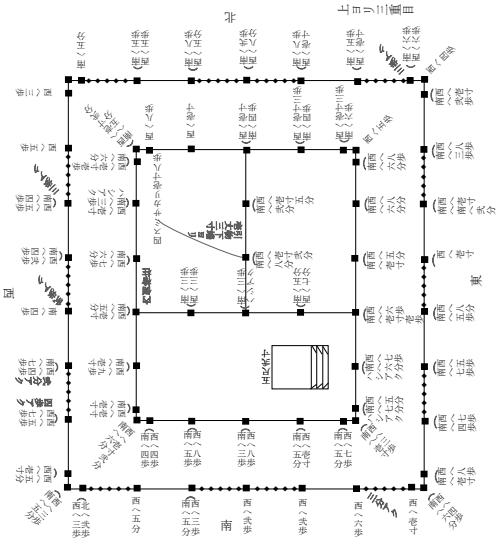
註3　『津山城　資料編』（津山市教育委員会、2000年）、『津山城　資料編解説』（津山市教育委員会、2002年）。なお、『津山城天守指図（四重目、五重目）』中に「弘化四丁未十二月朔日」とあり、『津山城天守地絵図』と同じく弘化四年成立である。

を見極めた上で修復の必要性を判断していたことがわかる。この弘化４年（1847）の下げ振りと水盛り検査の際に作成されたのが、『津山城天守地絵図』および『津山城天守指図』であると考えられる。

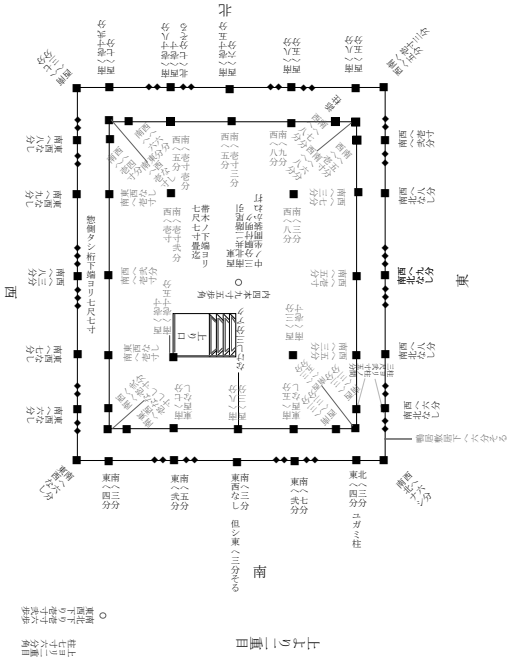
両絵図のうち、『津山城天守地絵図』（全７点）の３～５階および地下の図面には下げ振りの計測値が書き込まれている。また、『津山城天守指図』（全６点）にも、４・５重目を描いた指図に下げ振りの計測値を記載したものが１点含まれている。これら一連の絵図によると、天守の上層階の柱は、鉛直下より南へ１寸（≒ 3.03 ㎝）、西へ１寸程度変位していたことがわかる。柱の傾斜角は柱の高さから計算することができる。柱の規



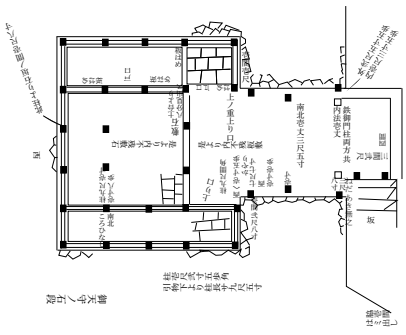
上より１層目



上より３層目



上より２層目



地階

『津山城天守地絵図』解読

格は、表１のように記されている。これを基に柱の傾斜角を計算すると、表２の通りとなる。

なお、『津山城天守地絵図』に描かれている柱配置を見ると、層塔型天守の特徴である通し柱を持たない構造となっていることがよくわかる。また、隅柱に近づくにしたがって柱間隔が広く開いていて、柱配置が変則的に描かれているが、この点については構造力学的に見て疑問が残ることが指摘されている[註4]。また、書き込まれている柱間の計測値と柱配置の描画との間には整合性が見られない。したがって、同絵図の描画の精度については検討を要するが、ここでは便宜上、同絵図のトレース図に下げ振りの検査結果を落として検討する。

図１は柱の傾斜方向と傾斜角度をトレース図に示したものである。これを見ると、柱の傾斜方向はおおむね南西であること、傾斜角は1°程度で、４階・５階の上層部を中心に柱傾斜が顕著であること、地下の柱の一部が座屈していることなどがわかる。また、柱の一つ一つの傾斜方向が異なり、上層階に上がるにつれてひずみが増幅している様子が読み取れる。天守が通し柱を持たない構造であったため、こうした現象が引き起こされたものと考えられる。

天守が南西方向に傾斜している理由については、まず地盤の問題をあげることができる。すなわち、天守曲輪南西部は、稜線上の造成地で地盤が特に弱い区域であり、その南端部に位置する五番門南石垣もやはり南西に傾斜していたからである（図２）。同石垣は平成13年に改修工事が行なわれたが、その直前には孕み出しが進行して崩壊の危険性が極めて高い状態であった（写真１）。その要因について、保存整備事業報告書では軟弱な地盤および高石垣による背面支持力の不足という問題点を指摘している[註5]。五番門南石垣も南西方向への傾斜が発生しており、天守曲輪南西部

註４　藤岡通夫『美作津山城復元考』（『近世建築史論集』昭和44年，中央公論美術出版）

	計測地点	長さ		幅	
５階	長押下～畳	81.5寸	（246.945cm）	9.5寸	（28.785cm）
	台輪下～敷居	〃	〃	7.8寸	（23.634cm）
	？～桁下	-	-	5.8寸	（17.574cm）
４階	５階上段框の直下	-	-	9.5寸	（28.785cm）
	帯木下端～畳	77寸	（233.31cm）	7.6寸	（23.028cm）
	惣側タシ桁下端～？	〃	〃	〃	（23.028cm）
３階	引物下～？	103寸	（312.09cm）	-	-
２階	-	-	-	-	-
１階	-	-	-	-	-
地下	引物下～？	95寸	（287.85cm）	12.5寸	（37.875cm）

出典；『御天守地絵図』（弘化４年改）津山郷土博物館所蔵
註；『御天守地絵図』（弘化４年改）津山郷土博物館所蔵　全７点のうち、各層の柱配置と下げ振りの測定値を記している４点（地下および３～５層）を対象にして計算した。

表１　柱の寸法

註５　『史跡津山城　保存整備事業報告書Ⅰ』（津山市教育委員会、2007年）

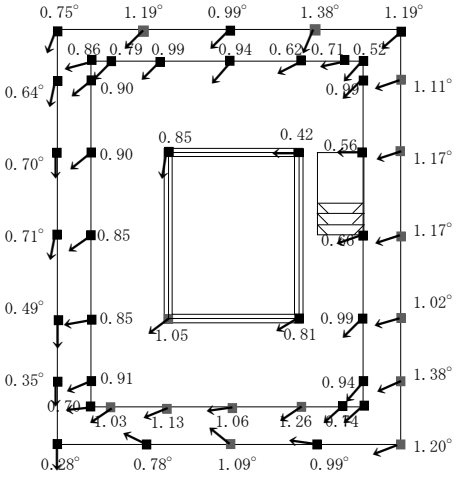
		atan((南方距離 ／ 西方距離)) × 180 ／ pi()	南方向に対する西への角度	方角	南方向距離・西方向距離（寸）	南累乗＋西累乗（寸）	直線距離（寸）	直線距離（cm）	傾斜角計算式 atan((柱高 ／ 柱変位)) × 180 ／ pi()	傾斜角（°）
５階	北西隅	35.53767779	54.46232221	西南西	南 0.75 西 1.05	1.665	1.29034879	5.04495	88.82964143	1.170358569
	北東隅	52.30575953	37.69424047	南南西	南 1.1 西 0.85	1.9325	1.390143877	5.855475	88.64167553	1.358324468
	南西隅	40.10090755	49.89909245	西南西	南 0.8 西 1.4	2.6	1.61245155	4.88572956	88.8665687	1.1334313
	南東隅	29.7448813	60.2551187	〃	南 0.3 西 0.95	0.9925	0.996242942	5.04495	88.82964166	1.170358337
４階	北西隅	59.03624347	30.96375653	南南西	南 1.0 西 0.6	1.36	1.166190379	3.5335557	89.1323021	0.867697899
	北東隅	35.21759297	54.78240703	西南西	南 0.6 西 0.85	1.0825	1.040432602	5.04495	88.82964143	1.170358569
	南西隅	70.01689348	19.98310652	南南西	南 0 西 0.2	0.04	1.29034879	3.90975747	89.09293959	0.907060406
	南東隅	0	90	西	南 0.55 西 0.2	0.3425	0.585234996	1.77326205	89.58857815	0.411421846
３階	北西隅	15.9453959	74.0546041	西南西	南 0.4 西 1.4	2.12	1.456021978	4.41174666	89.1901124	0.809887596
	北				北 0.7		0.7	2.121	89.6106172	0.389382798
	北東隅	16.69924423	73.30075577	〃	南 0.3 西 1.0	1.09	1.044030651	3.16341393	89.44374777	0.556252227
	東				西 1.0		1	3.03	89.44374777	0.556252227
	南西隅	19.65382406	70.34617594	〃	南 0.8 西 0.5	0.89	0.943398113	2.85849594	89.44374777	0.556252227
	南				南 0.4		0.4	1.212	89.44374777	0.556252227
	南東隅	57.99461679	32.00538321	南南西	南 0.5 西 1.4	2.21	1.486606875	4.50441921	89.17310283	0.826897166
	西				西 0.7		0.7	2.121	89.6106172	0.389382798

出典；『御天守地絵図』弘化４年改　津山郷土博物館所蔵

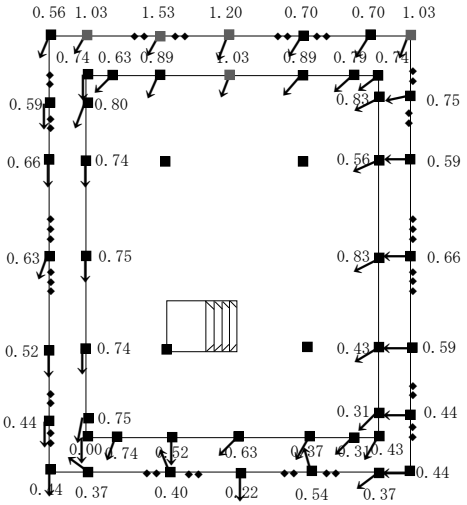
註
柱下端ａ（0,0）に対する下げ振り落下地点ａ´(x,y)
ｘ＝南北方向に対する下げ振り落下地点の座標（南方向への変位）
ｙ＝東西方向に対する下げ振り落下地点の座標（西方向への変位）
ｚ＝柱の高さ
a-a´＝atan(ｘ／ｙ) × 180 ／ pi()
傾斜角度（°）＝atan(ｚ／ａ－ａ´) × 180 ／ pi()
傾斜方角＝ｘ＾２＋ｙ＾２
傾斜方角＝√ｘ＾２+√ｙ＾２

表２　柱傾斜の角度および方角

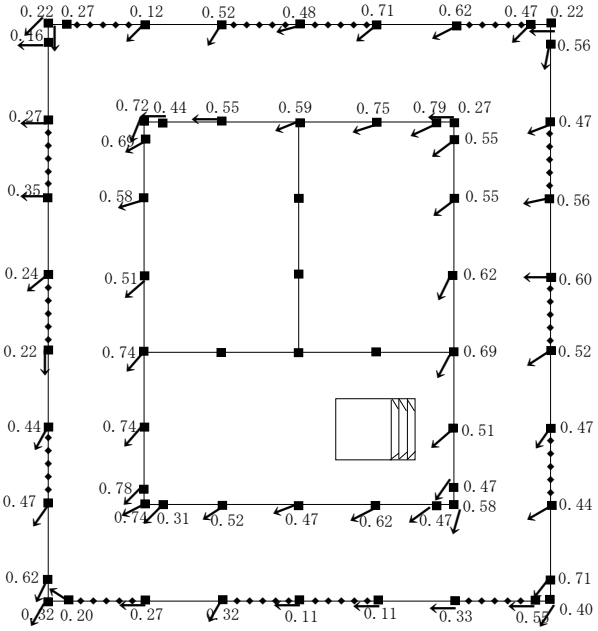
5階



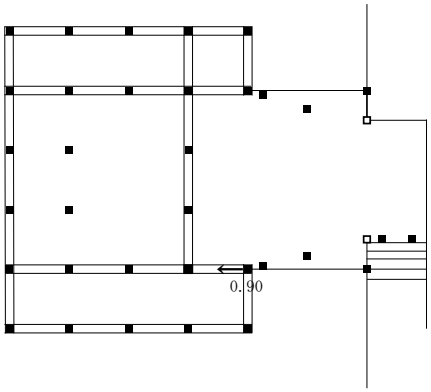
4階



3階



地階



■ は柱傾斜角１°以上の柱を示す

→は傾斜の方角を示す

出典；『御天守地絵図』（弘化四年改）津山郷土博物館

図１　天守柱傾斜３～５階（弘化４年）

の構造物は南西方向へ傾斜する傾向にあったことがわかる。老朽化に加えて、立地面の弱点が大きく作用したものと考えられる。建物の自重による柱の不同沈下により天守が傾斜した例としては、松本城天守のケースがあり、天守が無残にも大きく傾いていた姿は明治の古写真に撮影されている[註6]。

なお、『津山城天守地絵図』の描画から断面図を復元してみると、上から５層目の軒端が石垣根石先端部の垂直線上まで伸び、地階は鉄門柱と石垣との間に隙間があったと考えられる[註7]。

２．天守に関する絵図および文献史料について

次に、津山城天守の復元に関係する史料について概観する。ただし、ここでは古写真は検討の対象から外すことにする。なお、すでに藤岡通夫による関係諸史料の検討があるが[註8]、そこでは取り上げられていない史料を管見の限り追加した。関係史料は成立年代と記載事項によって概ね表３のように４つの史料群に分類できる。

註６　『古写真に見る日本の名城』（新人物往来社､2008 年）参照。明治後期の松本城天守が大きく傾いた様子を捉えた古写真が掲載されている。

註７　津山城の復元断面図には、前掲の藤岡通夫『美作津山城復元考』や三浦正幸『城の鑑賞基礎知識』（至文堂､1999 年）に掲載のものなどがある。

註８　藤岡通夫前掲書（註 2）

写真１　五番門南石垣南面解体修理前

A 群	『作州記』鶴山之城（貞享４年卯４月 24 日改）/『吉備群書集成』２
	『津山城内調書』（貞享４年卯４月改）/『美作國津山誌』
	『御城内諸記録』（貞享４年卯ノ４月 24 日改）弓斎 106（矢吹家資料）
	『貞享四年改書』/『津山市史』第３巻　近世Ⅰ
B 群	『御天守之覚』（丑ノ 11 月 13 日）/ 個人蔵，津山城資料編
	『津山天守并御城間数』（寅正月５日）/ 個人蔵，津山城資料編
	『作州津山御城内之記』作州津山之御城開築 / 個人蔵，津山城資料編
C 群	『御天守之図』（「作州津山御城内之記」）/ 個人蔵，津山城資料編
D 群	『御天守地絵図』（弘化４年）/ 愛山文庫，津山城資料編

表３　津山城天守復元関係史料一覧

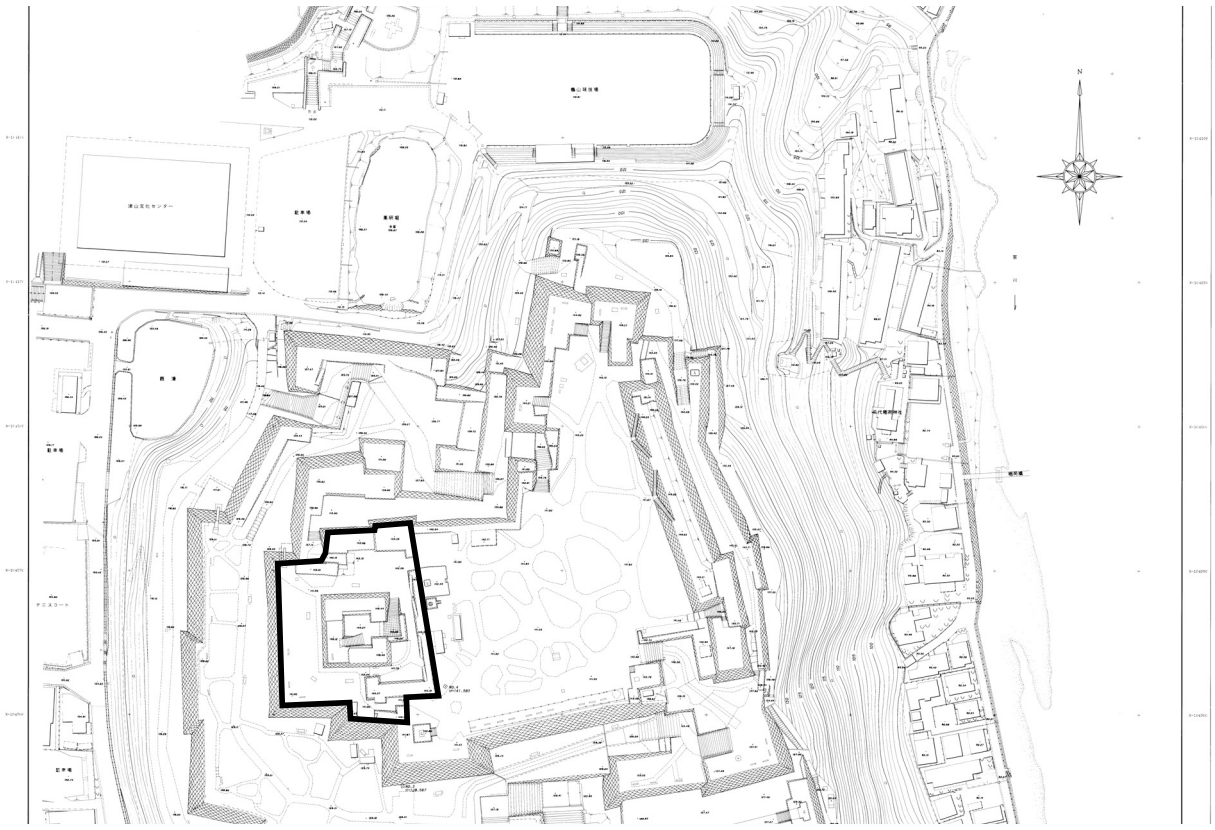


図２　地形図及び天守曲輪位置図

史料Ａ群（貞享４年）；梁桁の実測値等
史料Ｂ群（成立年未詳）；意匠の詳細と設計値
史料Ｃ群（成立年未詳）；外観の基本データ（設計値）
史料Ｄ群（弘化４年）;軸組の詳細測定値（柱傾斜検査）

なお、天守の復元図に関するこれまでの研究における史料の引用状況について表４に示した。史料Ｂ群はこれまでの考証では用いられていない史料であることがわかる。

史料の記載を比較すると､各史料の数値は一致せず、設計値と計測値が混在していることがわかる。整数で表されているものは設計値と考えられるが、これは史料Ｂ・Ｃ群に多い。一方、実測値と思われる数値は史料Ａ・Ｄ群に多い。史料群別にはある程度数値が一致しているが、細かい相違点も少なくない。特に、内部意匠・間取についての記載には異同が多い。記載の異同は天守の改築を示す可能性もあるが、単なる誤写とも考えられる。記述の相違点の概要は次の通りとなっている。

①窓・弓狭間・鉄砲狭間・石落し

減少傾向にある。

②畳数

増加傾向にある。

例えば、5 階は史料群Ａでは 25 畳、史料群Ｂでは 40 畳などとなっている。

③湯殿

記載がなくなり､同絵図では貼紙で消去している。

④御調台

記載がない、あるいは消去の痕跡あり。

⑤穴蔵梯子

史料群Ａだけに記載がみられる。

⑥地下敷板面積

増加している。

史料群Ａの史料では 2.5 × 2.5 だが、史料群Ｂでは 2.5 × 4 となっている。

⑦地下敷石面積

減少している。

史料群Ａの史料では 5 × 4.5 だが、史料群Ｂでは 3 × 5 となっている。

窓・弓狭間・鉄砲狭間の数、石落としの位置については諸説があるが、史料群の編年が仮にＡＢＣＤの順であるとすれば、窓・弓狭間・鉄砲狭間・石落しは次第に減少したという見方も可能であろう。また、この編年に基づくと、天守では畳数が増加し、湯殿・御調台・穴蔵梯子が改築されてなくなり、地階の敷板面積が増加し、敷石面積が減少するなどの変化があったことになる。

おわりに

最近の津山城の発掘調査によれば、天守曲輪については、夥しい量の栗石の充填によって地盤の強化が図

史料名	藤岡論文	三浦論文	鈴木監修 C.G
『作州記』鶴山之城（貞享４年卯４月 24 日改）/『吉備群書集成』２	○	○	-
『御城内諸記録』（貞享４年卯ノ４月 24 日改）/ 弓斎叢書 106（矢吹家資料）	△（付図のみ？）	△（付図のみ？）	-
『御城内諸記録』(貞享４年卯ノ４月 24 日改) の附図 / 弓斎 106 (矢吹家資料)	○	○	-
『津山城内調書』（貞享４年卯４月改）/『美作國津山誌』	○	○	-
『貞享四年改書』/『津山市史』第３巻　近世Ⅰ	×	×	-
『御天守之覚』（丑ノ 11 月 13 日）/ 個人蔵，津山城資料編	×	×	-
『津山天守并御城間数』（寅正月５日）/ 個人蔵，津山城資料編	×	×	-
『作州津山御城内之記』作州津山之御城開築 / 個人蔵，津山城資料編	×	×	-
『作州津山御城内之記』御天守之図 / 個人蔵，津山城資料編	×	×	-
『御天守地絵図』（弘化４年）/ 愛山文庫，津山城資料編	△（柱配置のみ？）	△（柱配置のみ？）	-
正保城絵図 / 国立公文書館内閣文庫，津山城資料編	×	○	-

註
藤岡論文；藤岡通夫「美作津山城復元考」(『近世建築史論集』昭和 44 年，中央公論美術出版)
三浦論文；三浦正幸『津山城復元模型の制作過程』(津山郷土博物館紀要第２号，1990 年)
鈴木監修；鈴木充監修津山城 CG（大成建設、2003 年）

表４　論文引用史料一覧

天守最上階（５階）

	A				B			C	D
	『作州記』	『津山城内調書』	『御城内諸記録』	『貞享四年改書』	『御天守之覚』	『津山天守并御城間数』	『作州津山御城内之記』	『御天守之図』	『御天守地絵図』
上段					２間・２間半	２間・２間半	２間・２間半		
畳縁					東西４間 南北５間	東西４間 南北５間	東西４間 南北５間	東西４間 南北５間	
板縁	東西５間１尺３分 南北６間３分	東西５間１尺 南北６間１尺	東西５間１尺 南北６間１尺	東西５間１尺 南北６間１尺	東西５間 南北６間		東西５間 南北６間		
畳数（上段）	10畳		10畳		10畳		10畳		
畳数（畳縁）	26畳		25畳		40畳		40畳	40畳	
柱寸法・材質（上段）	９尺４寸				１尺角・槻		１尺角・槻		９尺５寸５分
柱寸法・材質（畳縁）					８寸５分角・槻		８寸５分角・槻		７寸８分
柱寸法・材質（板縁）					８寸５分角・槻				５寸８分
窓数	東西６・南北４		東西６・南北４	20					
鉄砲狭間数	東西６・南北４		東西６・南北４	20					
弓狭間数	東西６・南４・北３		東西２・南北３	10					

４階

	A				B			C	D
	『作州記』	『津山城内調書』	『御城内諸記録』	『貞享四年改書』	『御天守之覚』	『津山天守并御城間数』	『作州津山御城内之記』	『御天守之図』	『御天守地絵図』
身舎					東西４間 南北５間	東西４間 南北５間	東西４間 南北５間		
入側	東西５間６寸６分 南北６間５寸３分	東西５間１尺 南北６間１尺	東西５間１尺 南北６間１尺	東西５間１尺 南北６間１尺	東西５間 南北６間		東西５間 南北６間	東西５間 南北６間	
畳数					60畳	60畳	60畳	60畳	
畳数（中之間）	38畳		38畳						
畳数（縁側）	22畳		22畳						
畳縁の幅	半間				３尺５寸	３尺５寸	３尺５寸		
柱寸法・材質					９寸５分角・槻栂		９寸５分角・槻栂		９寸5分角・7寸6分角
窓数	東西６・南北４		東西６・南北４	20	東西３・南北２		東西３・南北２		
鉄砲狭間数	東西６・南北４		東西６・南北４	20					
弓狭間数	東西４・南４・北３		東西２・南北３	10	（1 間間隔）		（1 間間隔）		

３階

	A				B			C	D
	『作州記』	『津山城内調書』	『御城内諸記録』	『貞享四年改書』	『御天守之覚』	『津山天守并御城間数』	『作州津山御城内之記』	『御天守之図』	『御天守地絵図』
身舎					東西４間 南北５間	東西４間 南北５間	東西４間 南北５間		
入側	東西６間２尺２寸 南北７間２尺３寸６分	東西６間半 南北７間半	東西６間半 南北７間半	東西６間３尺 南北７間３尺	東西６間 南北７間		東西６間半 南北７間半	東西６間半 南北７間半	
畳数	38畳＋48畳（86畳）		38畳＋48畳（86畳）		84畳	84畳		84畳	
柱寸法・材質					８尺５分角		８尺５分角		檜
窓数	東４・西３・南北４			14	東西３・南北３		桁行３・梁行４		
鉄砲狭間数	東西６・南北７			34					
弓狭間数	東４・西３・南北２			14					

２階

	A				B			C	D
	『作州記』	『津山城内調書』	『御城内諸記録』	『貞享四年改書』	『御天守之覚』	『津山天守并御城間数』	『作州津山御城内之記』	『御天守之図』	『御天守地絵図』
身舎					東西５間 南北６間	東西５間 南北６間	東西５間 南北６間		
入側	東西７間５尺３寸７分 南北８間５尺２寸	東西８間 南北９間	東西８間 南北９間		東西８間 南北９間		東西８間 南北９間	東西８間 南北９間	
畳数	57畳＋84畳(144畳)		144畳		144畳	144畳	144畳	144畳	
柱寸法・材質					８寸５分角・槻栂		８寸５分角・槻栂		
窓数	東西４・南北４		東西４・南北４		東西３・南北３		東西４		
鉄砲狭間数	東西９・南北８		東西９・南北８		東西９・南北７		東西９・南北７		
弓狭間数	東西４・南北３		東西４・南北３		東西４・南北４		東西４・南北４		

１階

	A				B			C	D
	『作州記』	『津山城内調書』	『御城内諸記録』	『貞享四年改書』	『御天守之覚』	『津山天守并御城間数』	『作州津山御城内之記』	『御天守之図』	『御天守地絵図』
身舎					東西６間 南北７間	東西６間 南北７間	東西６間 南北７間		
入側	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間		東西10間 南北11間	東西10間 南北11間	
畳数	138畳＋82畳(220畳)				220畳	220畳	220畳	220畳	
柱寸法・材質					１尺角・槻		１尺角・槻		
窓数	東４・西４・南３		東西４・南北３	17	東西４・南北４		東西４・南北４		
鉄砲狭間数	東４・西８・南５・北６		東西４・南北４		8		8		
弓狭間数	東４・西５・南４・北４		東西５・南北４		5		5		
石落し数	東２・西２・南２			8				3	

地下

	A				B			C	D
	『作州記』	『津山城内調書』	『御城内諸記録』	『貞享四年改書』	『御天守之覚』	『津山天守并御城間数』	『作州津山御城内之記』	『御天守之図』	『御天守地絵図』
拭板			２間半・２間半		２間半・４間	２間半・４間	２間半・４間		南北１丈３尺５寸
敷石			東西５間・南北４間半		３間・５間	３間・５間	３間・５間		
柱寸法・材質									１尺２寸５分角・９尺角１寸角・９尺角

表５　天守の内部意匠に関する記載の異同

られていることや、天守の基礎工事では柱の不同沈下防止策として礎石上に木材を渡す工法が採られていたことが解明されている[註9]。『津山城天守地絵図』を検討した結果、幕末には傾斜角約1°の柱傾斜が発生していたことがわかった。津山城天守がこの程度の柱傾斜で制御され、倒壊の危険を回避できた背景には、土地造成と基礎工事におけるさまざまな技術の集大成があるだろう。また土地造成段階の莫大な労働力の投入によるものも大きいといえる。津山城のような典型的な平山城であれば、地形的な制約によって土地造成にかなりの困難が伴う。さらに、天守は尾根上の造成地に立てられた特殊な高層木造建築物であり、高度な築城技術が要求されたであろう。そしてまた、築城から廃藩までの約270年のおよそ3世紀にわたるメンテナンスの歴史も建造物の維持にとって大切な役割を果たしていることも改めて感じさせる。

【謝辞】
本稿作成にあたり、平岡正宏主査の御教示を得ました。末筆ながら、お礼申し上げます。

註9 『津山城百聞録』（津山市、2009年）参照。天守の基礎の工法について、①柱が並ぶ位置に礎石列を配置する②礎石列の上に土台の木材を設置する③土台の木材の間に敷石を配置する④柱を建てるという順序で構築され、柱の位置に礎石を直接配置して柱を建てるよりも頑丈な構造となっていることが指摘されている。

美作の狛犬（１）津山市

田渕千香子

はじめに

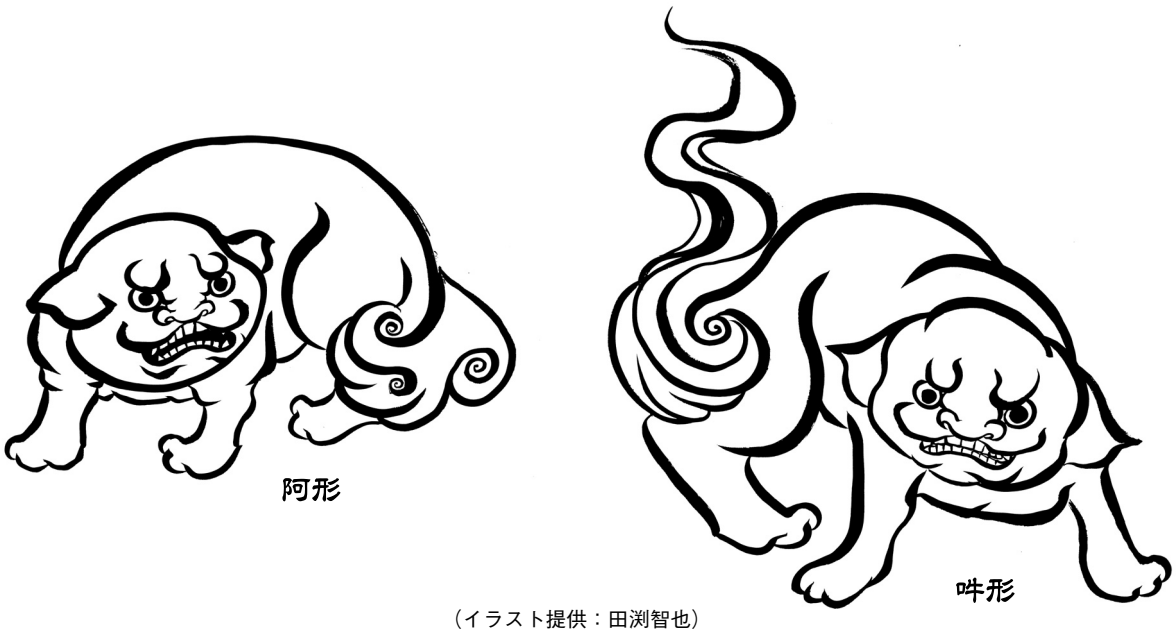
神社を訪れると参道脇などにちょこんと、犬のような猫のような形をした石造物が座っている。狛犬である。均整のとれた美しい姿形をしたものから、脅迫的な怖い顔をしたもの、奇怪で怪しげなもの、おとぼけてユーモラスなものまで様々な面相をしている。大きさも50cm程度のものから170ｃｍを越すようなものまである。時代や地域、寄進者と石工の思考などで形づくられる様々な表情には、その背景にある歴史や人々の営みを表現しているように見受けられる。

狛犬は聖なる場所を守護するための霊獣で、左右一対で置かれる。平安時代は木造で神殿の内部に置かれた。当時の狛犬には双方に外見の違いがあり、口を開けているのが「獅子」、口を閉じて角が生えているものが「狛犬」とはっきりとした違いがあった。しかし、時代が下るに連れて双方の違いがなくなり、狛犬が獅子化して現在にみられるような「獅子・獅子」の形が定着していったようである[註1]。

江戸時代以前は、国司や守護などの土地の有力者が奉納していたが、それ以後は氏子、商人、町人などが競って寄進するようになり、現在、神社の参道でみられるような狛犬が全国に広がっていった。それに伴い狛犬は、本殿の内部から外に出て神社を守るようになり、材質も木製のものから風雨に強い花崗岩、凝灰岩、砂岩などの石製へと変わっていった。現在では、陶製、瓦質、コンクリート、樹脂などで造られた狛犬もある。江戸・明治・大正・昭和・平成と時代の変化を見つめてきた狛犬は、時代が変わり訪れる人もまばらになり、風化の一途をたどっている。この状況は狛犬に限らず、神社境内の鳥居、灯篭、玉垣、手水石などの他にも、地神塔、道標、五輪塔など道端で見かける石造物にも及び、その存在の意味さえ知る人は少なくなってきている。先祖が残してきたものを忘れ去り、その上に暮らしていくことが豊かな生活といえるのだろうか。変化する時代を生き抜いてきた石造物を、次代に伝えていくことの重要性を改めて感じさせられている。

今回、市内154社の神社を巡り、狛犬が確認できたのは67対である。しかし、まだ巡っていない神社が多数あるため、今後、さらにその数は増えるものと思われる。小稿では67対の狛犬を年代、石工銘、姿形、材質などから大阪の狛犬・出雲型・尾道型・岡崎型の4タイプに大別した。以下、それぞれのタイプの特徴と変遷について検討することにする。

註１　上杉千郷『狛犬事典』戒光出版2001年



（イラスト提供：田渕智也）

写真１　中山神社（一宮）
石工・泉州住石工小鯛市兵衛
明和元年 (1764)

写真２　八幡神社（阿波）
石工・泉州貝掛村住人里山源助
弘化２年 (1845)

写真３　八坂神社（近長）
石工・大阪石工石光
明治 31 年（1898）

写真４　金刀比羅神社 4(加茂中原)
石工・泉州貝掛住里山源助
年代不詳

大阪の狛犬

大阪の狛犬

江戸時代後半の明和元年（1764）に奉納された一宮の中山神社神門前の狛犬を最古とする（写真 1)。台座には、石工名「泉州住石工小鯛市兵衛」が刻まれている。この狛犬が奉納された時代は、全国的にみても狛犬の全盛期であり全国各地で様々な狛犬が造られ奉納された。市内では、この狛犬が奉納された時期から明治の終わりまでは、大阪の狛犬が大半を占める。

この時代のものは個性が強く、それぞれが独特な形をしている。それは、美作全域でも同じ状況にある。大阪の狛犬は、色々な姿形をしているため、分類することは容易ではない。さらに、大阪の石工の名前が銘記されていても型式は他のものを踏襲しているものもあり、一概にタイプを断定することは難しい。しかし、上を向いた横広の鼻、垂れ耳、花崗岩製のものが多いなどの特徴をあげることができる。姿勢は座形（蹲踞（そんきょ）の姿勢）が基本で、顔は縦長や丸顔で彫が浅く、鬼面･人面に近い印象である。また、本来の「獅子・狛犬」の形式を踏襲しているため、吽形の頭部には角があるものがある[註2](註 2)。一宮の中山神社（写真 5)、総社の総社宮の吽形がそれである（写真 6)。石工の名前が刻まれており、大阪で作られた狛犬であるとわかるものには、中山神社（写真 1)、阿波の八幡神社（写真 2)、近長の八坂神社（写真 3)、加茂中原の金刀比羅神社（写真 4）があげられる。しかし、八幡神社、金刀比羅神社の狛犬は、大阪の石工の名が記されてはいるが、型式からいうと出雲型座形になるため、分類が難しいところである[註3]。ここでは、大阪の石工の銘があるため、大阪の狛犬に分類した。

写真５　中山神社（一宮）
明和元年 (1764)

写真６　美作総社宮（総社）
嘉永６年 (1853)

角のある狛犬

出雲型狛犬

大阪の狛犬の後に続くのは出雲型狛犬である。新庄村の御鴨神社の狛犬（写真 13）は、慶應 2 年（1866)、真庭市美甘の美甘神社の狛犬（写真 14）は、明治 31 年（1898）作製である。市内で確認できる出雲型狛犬の最古のものは、徳守神社の拝殿前の狛犬で、明治 40 年（1907）の作である。これらのことから、出雲街道を介して徐々に津山市内に伝播してきたものと考えられる。このことは、今後調査を蓄積することによ

註 2　上杉千郷『狛犬事典』戒光出版 2001 年

註 3　倉敷埋蔵文化財センター　藤原好二氏のご教示による。

写真７　徳守神社本殿前（宮脇町）
石工・不詳
明治 10 年（1877）

写真８　田神社（下田邑）
石工・津山市二宮石工田淵良次郎
昭和８年（1934）

写真９　佐良神社 (一方)
石工・不詳
昭和９年（1935）

写真 10　吉田神社（神戸）
石工・津山市二宮工作田淵良治郎
昭和 12 年 (1938)

出雲型座形狛犬（１）

り明らかになっていくものと思われる。

出雲型狛犬は、来待石で造られているものがほとんどである。来待石は宍道湖の南に注ぐ来待川周辺から産出される石で、狛犬細工に適した柔らかな石として知られている。江戸時代から明治・大正にかけて大量に造られ、北前船を使って広く日本海側全域に広まった。日本海沿岸で見られる古い狛犬には、このタイプの狛犬が多い[註4]。しかし、柔らかく細工がしやすい反面、壊れやすく風化が早いという欠点もある。

出雲型狛犬の姿勢には座形と構形（前足を踏ん張り、後ろ足を上に伸ばし今にも飛びかかってきそうな構えの姿勢）の２タイプがある。構形は、市内では確認できなかったが、現在調査中の真庭市、新庄村、鏡野町周辺には多数見られる。

出雲型狛犬は、決まった形をコピーしたものであり大阪の狛犬ほどの個性はないが、手彫りであるため、当然のことながら個体差はある。外見は、頭が比較的大きく四角い感じで獅子舞の獅子頭のような印象をうける。耳は垂れて長く、尾は蝋燭の炎の様にまとまって立ち上がる。牡丹の絵が施された碁盤上の台座がセットになる。

尾道型狛犬

尾道型狛犬は、長く伸びたするどい犬歯をもち、尻尾は刺々しく逆立ち、耳が横に大きく突出するもので、座形・構形・玉乗り形の３タイプがある。市内で座形に属するものは、上之町の大隅神社の狛犬（写真 15）である。構形は一宮の中山神社（写真 17）、宮尾の八

註４　ねずてつや『狛犬学事始』ナカニシヤ出版 1994 年

写真 11　瓜生神社（瓜生原）
石工・不詳
昭和 15 年（1941）

写真 12　千磐神社（千和）
石工・不詳
昭和 16 年（1942）

出雲型座形狛犬（２）

写真 13　御鴨神社（新庄村）
石工・伯州石工文四郎
慶應２年（1866）

写真 14　美甘神社（真庭市美甘）
石工・不詳
明治 31 年（1898）

出雲型構形狛犬

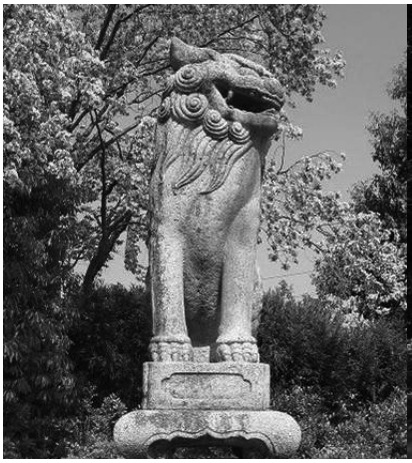


写真 15　大隅神社（上之町）
石工・備後尾道市助
明治 2 年（1869）

写真 16　八幡神社（宮尾）
石工・不詳
明治 40 年 (1907)

写真 17　中山神社（一ノ宮）
石工・不詳
明治 41 年 (1908)

尾道型狛犬

幡神社の狛犬（写真 16）がそれにあたる。広島県や岡山県南に多く見られる玉乗り形狛犬は、今回の調査では確認できなかった[註5]。箱座には、格挟間あるいは牡丹装飾を施すものが多く、大隅神社は格挟間、八幡神社・中山神社のものには牡丹装飾が施されている。

大阪の狛犬・出雲型狛犬の混在期に入ってきた尾道型狛犬は、上之町の大隅神社の狛犬が明治 3 年 (1870) で最も古い。台座には「備後尾道市助」の銘が入っている。この「備後尾道市助」は、笠岡市園井の諏訪神社、浅口市鴨方町本庄の大歳天神社の狛犬を彫った「尾道石工市村定助」のことではないかという見解もある[註6]。両者とも明治 12 年 (1879) の作で、大隅神社と年代的にも近いことからその可能性は高いと思われる。

岡崎型狛犬

岡崎型狛犬は、現在、日本各地どこへいっても確認できるタイプである。市内でも多く見られ、昭和 10 年以降の狛犬は、ほぼ岡崎型といってもよく全体の半数近くを占める。この狛犬は、愛知県岡崎市で生まれ、神殿狛犬の様式を現代風にアレンジしたものである。この狛犬が全国的に広まった理由としては、岡崎現代型の生みの親といわれている石工・酒井孫兵衛（6 代目）がオリジナルの狛犬造りに情熱を燃やし、金石神社（西尾市）の狛犬を皮切りに、試行錯誤の末に岡崎

註 5　藤原好二『倉敷の歴史－倉敷市史紀要－第十七号備中南部における石製宮獅子～尾道石工の影響を中心に～』倉敷市教育委員会 2007 年と藤原好二氏のご教示による。

註 6　同上

写真 18　福本神社（美作市福本）
石工・酒井孫兵衛
大正 13 年 (1924)

写真 19　石工・酒井孫兵衛銘

「酒井孫兵衛」銘のある狛犬

乙川八幡社（愛知県半田市）

業葉神社（愛知県半田市）

（写真提供：田中義人氏・田中智子氏）

愛知県半田市の狛犬

写真 20　西幸神社（美咲町西幸）
昭和 7 年 (1932) 出雲型座形

写真 21　高良神社（押入）
昭和 14 年 (1939) 岡崎型座形

写真 22　八頭神社（桶屋町）
平成 11 年 (1999) 岡崎型座形

写真 23　青柳神社（青柳）
平成 13 年 (2001) 岡崎型座形

石隆銘のある狛犬と岡崎型狛犬

現代型の雛形を造りあげた。割り寸など、この狛犬の「制作マニュアル」を自分の弟子のみならず、広く岡崎の石工仲間に公開したため、あっという間にこのタイプの狛犬が広まったようである[註7](註 7)。「石匠酒井孫兵衛」は、8 代目まで続いた愛知県岡崎市の石工である。寛政 13 年（1636）、3 代将軍家光が氏神である伊賀八幡宮の社殿大造営に伴い神橋の修理のため、摂津国から招かれ、後に渡り職人として岡崎に住み着いたのが祖である。大正時代になると、岡崎市周辺でも狛犬の奉納が急激に増えた。

美作市福本の福本神社（賀茂大明神）には、大正 13 年（1924）に奉納された酒井孫兵衛の狛犬がある。年代や姿形から、6 代目～ 8 代目の作品であると思われる。この狛犬を寄進した岡崎市の水島傳助・せう夫妻の親戚筋の方が美作市に在住で、お話を伺うことができた。当時この二人は岡崎市で石材業を営んでおり、実家がこちらにあるという縁で狛犬と灯篭を寄進されたとのことである。貴重なお話を聞くことができ、感謝申し上げたい。酒井孫兵衛との関連については現在調査中である。

また、愛知県半田市の狛犬には、酒井孫兵衛の影響があると思われる狛犬が多く見られる。

出雲型から岡崎型へ

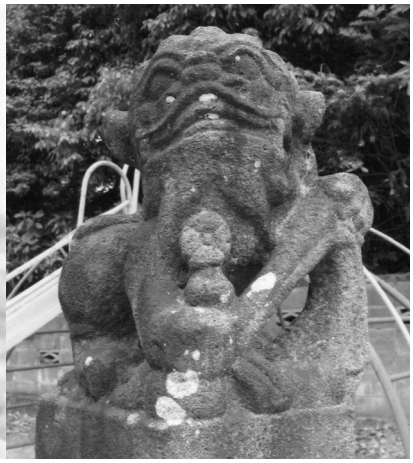
県北部地域の狛犬の中には、「石隆（いしたか）」の銘が入ったものが 6 対ある。美咲町西幸の西幸（さいこう）神社（写真 20）、津山市押入の高良（こうら）神社（写真 21）、真庭市下呰部の八幡神社、新見市豊永宇山の岩山神社、美作市豊国原の五座神社の狛犬にはすべて「石工石隆」と刻まれてある。この中では、西幸神社の来待石製の出雲型座形狛犬が昭和 7 年（1932）で最も古い。この狛犬以降、石隆の狛犬はすべて岡崎型に変わる。西幸神社の次に古いものが、押入の高良神社で昭和 14 年（1939）作である。昭和 7 年から昭和 14 年の 7 年の間に出雲型から岡崎型へと変わっていったことがわかる。「石隆」は、現在も「石隆石材」として市内で営業されているので、関係者の方にお話を伺ったところ、昭和 7 年頃には岡崎市と流通があったということで、岡山県内でも早くに岡崎型狛犬を取り入れていたことが確認できた。また、美作周辺の狛犬を見ると、終戦前後から昭和 26 年までの狛犬と昭和 52 年以降の狛犬とでは、スタイルに若干の違いが見られる。前者の狛犬は、戦時下の時代背景から厳つく威嚇するような姿形のものが多く似通った形をしているが専門的な職人を雇って手彫りで造られて

高田神社鳥居前の備前焼狛犬平成 8 年 (1996) 当時
（写真提供：岩本えり子氏）

註 7　たくきみつよし『狛犬かがみ』バナナブックス 2006 年

八頭神社稲荷宮（桶屋町）

近長の公園（写真提供：奥卓真氏）



近長の公園

尾道型狛犬

いたため、個々に違いが見られる。後者になると工場で造られたり、中国から輸入されたものになり、個体差がでにくくなってきている。(写真 22・23)

備前焼狛犬

市内唯一の備前焼狛犬だった上横野の高田神社鳥居前の狛犬は、平成 17 年 (2007)4 月頃、何者かによって盗難の被害にあった。今もその行方は杳として知れず、帰参が待たれる。平成 17 年 7 月には備前焼狛犬があった場所に岡崎型狛犬が奉納されている。

その他の狛犬

八頭神社の摂社稲荷宮には、体長 20 センチのミニ狛犬が奉納されている。構形の姿勢で材質は砂岩であ

図１　津山市内狛犬分布図　（1764 年～ 1900 年頃）

図２　同（1907 年～ 1938 年頃）

図３同（1939 年～ 2007 年頃）

る。古いものかも知れないが時期の特定はできない。また、近長の公園には変わった形をした石造物がある。両方の口が開いた「阿－阿」型で、胸には瓔珞 (ようらく) というベルト飾りがあり、中国獅子であることが判る[註8]。設置された年代は不明である。

狛犬の分布

津山市内の狛犬の分布を年代別に図１から図３に示した。

図１は、1764 年～ 1900 年頃の津山市内の狛犬分布図である。これをみると、大阪の狛犬が市内全域に満遍なく所在していたことがわかる。そして、図２の 1907 年～ 1938 年頃になると、狛犬奉納のピークは過ぎ、数が激減する。この時期は、大阪の狛犬・出雲型・尾道型が混在するが、大阪の狛犬に変わり、出雲型が一時増える。それから、図３の 1939 年～ 2007 年頃になり再び狛犬奉納の機運が高まり、その時に入ってきた岡崎型狛犬が大半を占めるようになった状況が読み取れる。

まとめ

小稿では、津山市内に分布する主に４タイプの狛犬を紹介し、その変遷を辿った。その結果、市内には大阪・島根・広島・愛知４府県の狛犬が、入ってきていることが分った。そこから見えてきた狛犬の変遷は、「大阪の狛犬」から「尾道型」・「出雲型」となり、現在主流となっている「岡崎型」へと移り変わっていったことが判明した。今後も調査を積み重ね、成果をより確実なものにしていきたいと考えている。

次回は、真庭市・鏡野町周辺で多くみられる出雲型狛犬の流れを追い、津山市の狛犬にどういった影響をもたらしたのかについて言及したい。

小稿を書くにあたって、倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二氏には狛犬の形態などの基本的な見方からご教示いただいた。徳守神社では、狛犬を観察する機会を与えていただいた。石隆石材の方には岡崎型狛犬に関するお話を聞かせていただいた。美作市では、滝の宮神社の関係者にお世話になった。奥卓真氏、岩本えり子氏、田中義人・智子夫妻には写真を提供していただいた。また、津山市教育委員会文化財課の行田裕美、岩本えり子、近藤有紀、さらに兄の田渕智也には現地調査でお世話になった。

末筆ながら御礼申し上げます。

註８　たくきみつよし『狛犬かがみ』バナナブックス 2006 年

番号	神社名	所在地	石工銘	寄進年	体長・幅（ｃｍ）						雌雄	保存状態	姿勢	型	材料
1・5	中山神社①	津山市一宮	泉州住石工 小鯛市兵衛	明和元年 (1764 年)	高さ	(阿) (吽)	７３ｃｍ ７４ｃｍ	幅	(阿) (吽)	６４ｃｍ ６４ｃｍ	阿：雄 吽：雌	良い	座	大阪の狛犬	花崗岩
2	八幡神社	津山市阿波	石工泉州貝掛村住人 里山源助	弘化２年 (1845 年)	高さ	(阿) (吽)	７２ｃｍ ７２ｃｍ	幅	(阿) (吽)	４２ｃｍ ４２ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	大阪の狛犬	花崗岩
3	八坂神社	津山市近長	大阪石工石光	明治 21 年 (1889 年)	高さ	(阿) (吽)	８６ｃｍ ８６ｃｍ	幅	(阿) (吽)	４１ｃｍ ４１ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	大阪の狛犬	花崗岩
4	金刀比羅神社④	津山市加茂中原	石工　泉州貝掛住 里山源助	不明	高さ	(阿) (吽)	60 ｃｍ ３６㎝	幅	(阿) (吽)	60 ｃｍ 36 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	大阪の狛犬 (出雲型座形)	花崗岩
6	美作総社宮	津山市総社	不明	嘉永６年 (1854 年)	高さ	(阿) (吽)	８１ｃｍ ９１ｃｍ	幅	(阿) (吽)	６３ｃｍ ６３ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	大阪の狛犬	凝灰岩
7	徳守神社	津山市宮脇町	不明	明治 40 年 (1907 年)	高さ	(阿) (吽)	７９ｃｍ ７７ｃｍ	幅	(阿) (吽)	６４ｃｍ ６２ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	座	出雲型	来待石
8	田神社	津山市下田邑	津山市二宮石工 田淵良次郎	昭和８年 (1934 年)	高さ	(阿) (吽)	77 ｃｍ ７７ｃｍ	幅	(阿) (吽)	６１ｃｍ ６１ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	座	出雲型	来待石
9	佐良神社	津山市一方	不明	昭和９年 (1934 年)	高さ	(阿) (吽)	８９ｃｍ ８６ｃｍ	幅	(阿) (吽)	７１ｃｍ 71 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	座	出雲型	来待石
10	吉田神社	津山市神戸	津山市二宮工作 田淵良治郎	昭和 12 年 (1938 年)	高さ	(阿) (吽)	78 ｃｍ 59 ｃｍ	幅	(阿) (吽)	78 ｃｍ 59 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	座	出雲型	来待石
11	瓜生神社	津山市瓜生原	不明	昭和 15 年 (1940 年)	高さ	(阿) (吽)	59 ｃｍ 59 ｃｍ	幅	(阿) (吽)	44 ｃｍ 44 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	座	出雲型	来待石
12	千磐神社	津山市加茂知和	不明	昭和 10 年 (1935 年)	高さ	(阿) (吽)	79 ｃｍ ７９ｃｍ	幅	(阿) (吽)	51 ｃｍ 51 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	座	出雲型	来待石
13	御鴨神社	新庄村梨瀬	伯州石工文四郎	慶應２年 (1866 年)	高さ	(阿) (吽)	96 ｃｍ 92㎝	幅	(阿) (吽)	51 ｃｍ 56 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	構	出雲型	来待石
14	美甘神社	真庭市美甘	不明	明治３１年 (1898 年)	高さ	(阿) (吽)	91cm ９１ｃｍ	幅	(阿) (吽)	65cm 56 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	風化して いる。	構	出雲型	来待石
15	大隅神社	津山市上之町	備後尾道市助 (市村定助？)	明治２年 (1869 年)	高さ	(阿) (吽)	１３３ｃｍ 128 ｃｍ	幅	(阿) (吽)	７６ｃｍ ７２ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	尾道型	花崗岩
16	宮尾八幡神社	津山市宮尾	不明	明治４０年 (1907 年)	高さ	(阿) (吽)	７６ｃｍ ５５ｃｍ	幅	(阿) (吽)	７６ｃｍ ５５ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	構	尾道型	花崗岩
17	中山神社②	津山市一宮	不明	明治 41 年 (1908 年)	高さ	(阿) (吽)	１５０ｃｍ １５０ｃｍ	幅	(阿) (吽)	１０３ｃｍ １０３ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	構	尾道型	花崗岩
18・19	福本神社	美作市福本	酒井孫兵衛	大正 13 年 (1924 年)	高さ	(阿) (吽)	89cm 89cm	幅	(阿) (吽)	76cm 76cm	阿：不明 吽：不明	良い	座	岡崎型	花崗岩
20	西幸神社	美咲町西幸	津山石隆 彫刻	昭和７年 (1932 年)	高さ	(阿) (吽)	７３ｃｍ ７４cm	幅	(阿) (吽)	４５cm ４６cm	阿：不明 吽：不明	良い	座	出雲型	来待石
21	高良神社	津山市押入	不明	昭和 14 年 (1939 年)	高さ	(阿) (吽)	７０ｃｍ ７０ｃｍ	幅	(阿) (吽)	４８ｃｍ ４８ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	岡崎型	花崗岩
22	八頭神社	津山市桶屋町	不明	平成 11 年 (1999 年)	高さ	(阿) (吽)	70cm 70 ｃｍ	幅	(阿) (吽)	54 ｃｍ 54 ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	岡崎型	花崗岩
23	青柳神社	津山市青柳	不明	平成 13 年 (2001 年)	高さ	(阿) (吽)	６６ｃｍ ６６ｃｍ	幅	(阿) (吽)	４４ｃｍ ４４ｃｍ	阿：不明 吽：不明	良い	座	岡崎型	花崗岩

本書掲載狛犬一覧表

コロビ山の開発～安黒一枝の日記から（２）～

岩本えり子

はじめに

今回は、第２回目として、安黒一枝が手掛けた事業を、大正６年～昭和２年までの日記から、コロビ山の開発、行啓道路、山下、新開地、二階町の開発、竹器工場、足袋会社に関する記述を取り上げる。以下、日記のページをめくっていく。

コロビ山の開発

大正13年３月16日
　昼食後椿高下小林君住宅建築を視察是より同君と同伴コロビ山北町を経て宮川、橋本町に迂回信託に鳥越君を訪問
大正14年１月11日
　コロビ山開墾地処分に関する懇談あり 11 時過帰荘
７月25日
　夜に水島君来荘コロビ山分譲の件に付懇談木村君を招致し石垣の設計を聴取
７月27日
　コロビ山視察の件約す
９月10日
　今朝よりコロビ山に鑿井工事着手第１第２回共不成功和田君と会合コロビ山開墾地取引方今村より当分此□協同処分進展努力すべき旨懇談すべ置く
９月11日
　朝コロビ山に出張第３回鑿井試掘不成功打□試掘是にて打切り方針変更の必要を認め普通井戸採掘方和田君へ委嘱
９月25日
　朝８時過銀行出頭頭取両常務小川君皆出張中にて不在山根村長来行院庄桜神社建築家附に関する件杉山君昨夕帰津ノ由出頭帰途コロビ山に迂回鑿井状況視察夜分今村君来荘郡是製糸株決算書入手
10月11日
　午前コロビ山（井戸採掘）及三徳麦工場跡視察
10月16日
　コロビ山第二井水質検査の結果濾過すれバ飲料水に適する旨に付此儘にし掘鑿中止
10月27日
　和田君来行コロビ山開墾地井戸の件及地ナラシ工事の件に付夕方山本君来荘同君経営の出社□所事業を株式組織にするに付発起者たるべく懇談あり
11月３日
　夜分昼間の約束に依りキリ屋に和田君を訪問コロビ山の件に付懇談あり
11月15日
　夕方コロビ山視察夜分土地会社帖簿整理
大正15年2月23日
　コロビ山開墾地へ電柱建立の件懇談
７月２日
　和田君来荘コロビ山債務引受件に付懇談あり
９月20日
　和田君コロビ山開墾地引渡方懇談
10月22日
　高岡君来荘昼食後同君同伴コロビ山整地計画視察
10月31日
　午後高岡君同伴コロビ山開墾地視察
11月23日
　午后コロビ山埋立工事視察
12月５日
　昼食后開墾地視察
大正16年（昭和元年）2月24日
　夕方コロビ山埋立工事視察
３月21日
　コロビ山より山下埋立地視察
４月10日
　昼食后真木医師を訪ね不在依てコロビ山開墾地視察裏より鶴山城跡散歩山下の開墾を続けて夕刻帰荘
10月22日
　朝池田棟梁を招きコロビ山新築の件懇談
12月20日
　夜分久山智政君来荘コロビ山土地譲渡の件 10 時帰去
昭和２年１月11日
　退行帰途コロビ山工事視察
１月22日

池田君来訪コロビ山借家に関し
2月3日
退行帰途高井君同伴コロビ山借家工事視察□員人池田君へ今般の工事に付指示
2月18日
午後山口未亡人来荘コロビ山土地に関する件夕方高岡君来荘コロビ山土地に関する件
3月5日
久山智政君来荘銀行の件コロビ山土地の件懇談11時辞去
3月20日
朝池田棟梁来荘コロビ山新築決算に関する件
3月26日
池田棟梁へコロビ山建築費決算をなす
5月13日
コロビ山新築工程視察
5月27日
夕食后コロビ山新開地新築工事視察
8月2日
夕食後押阪君同伴コロビ山散策
8月17日
夕食後コロビ山新開地新築工事散策
9月9日
本日池田棟梁来訪コロビ山借家建築代勘定の件4500円決定
9月18日
夕食后コロビ山、新開地散策

行啓道路新設

大正15年2月4日
宮川君来荘津山警察署前日笠君所有土地に関する件
2月28日
朝宮川日笠両君来荘警察署前の土地の件
3月28日
日笠宮川の両君来荘警察署前田地土地会社引受整理の事調談3人同伴
現地に就き打合をなす
3月30日
和田君来荘日笠田地開墾に付土取場の件に関し懇談
4月1日
夕方木村君来荘日笠田地開墾の件
4月2日
朝木村君来荘日笠田地開墾の件和田君来行日笠田地開墾の話を委嘱
鳥越君来行山田君所有田地売買関する件日笠和田高岡宮川の諸君参集を依頼し鶴山行啓道路設計に付町役場との交渉進展したるため
日笠田地開墾契約確立の必要あり一切万事を津山土地会社へ一任して貰う事にして協議□る大工事に就いて一切和田君へ尽力□す事に委嘱2時散会
4月6日
和田君来行日笠田地開墾行啓道路新設に付町役場との契約書に調印す
4月7日
夜分高岡君来荘予て多胡君へ依頼の日笠田地開墾設計書なる和田君へ預けを依頼
4月12日
吉田助役来行日笠田地行啓道路新設に関する件
4月13日
町役場吉田技師来行行啓道路新設に関し
4月16日
朝行啓道路工事を視察9時半銀行出頭
4月22日
行啓道路土手進捗
4月23日
朝日笠田地開墾土地視察し9時半銀行出頭
4月24日
朝日日笠田地工事場を□し
4月25日
同道工事視察の上キノゑに至り
4月26日
夕食後工事場視察の上キノゑに至り
4月27日
工事場視察の上9時半銀行出頭
4月30日
朝工事場視察の上銀行出頭行啓道路□の□□
5月1日
朝工事地場視察の上9時過銀行出頭
5月11日
木村君来荘行啓道路□引〆後の石材を積載したる自動車を通して試験の結果正式に引渡完了
5月23日

朝晴天時々雨雲はれしも遂に不降本日自警当番にて事ム所へ一時間出頭10時頃より山口君同伴行啓道路日笠君屋敷へ至り12時半皇太子殿下の行啓を奉還す本日の人出□□十万と秤り鶴山館に成らせられ城山に御少憩中学校に行啓御出発14時岡山へ御帰還あらせたる此日中山神社郡是製糸工場作楽神社浮田製糸工場へ侍□差遣せらる

二階町山下、新開地の開発

大正10年3月15日
　夕方二階町辺迄散策
大正12年11月4日
　山下住宅組合建築地散策
大正13年2月11日
　山下住宅組合建築地散策
大正15年5月13日
　北村君矢吹君未亡人同伴来行同君取引土地（二階町）売買渡契約入金として3000円交付
５月19日
　北村君より二階町土地に関し電話あり夜分市内散策
５月31日
　関君立会の上二階町裏荒無地同千坪金9000円迪にて買約調談代金ノ内金2000円也相談す昼食后今関係者実地に立会視察
６月３日
　夜分北村君来荘二階町裏土地に関し高岡君来荘龍門君来荘11時過帰去
６月13日
　和田君来荘二階町裏開墾に関する件
７月１日
　二階町裏埋立の件に付協議に付帰荘
７月８日
　二階町裏工事場に立寄る
７月12日
　途中二階町裏工事場に立寄り和田君と種々打合事項あり
７月16日
　二階町工事場に立寄る石垣其他の件に付協議
７月18日
　二階町工事場に立寄り銀行出頭本日より石垣築造開始
７月22日
　朝高岡君来荘同伴二階町浦工事場視察ノ上□行
８月１日
　夕方二階町工事場視察風月に雑談
８月22日
　二階町裏工事場及警察署前工事場散策
９月５日
　高岡君和田君同伴二階町裏道路布設予定経路視察
９月７日
　北村君来行二階町裏土地分譲の件（矢吹君希望）
９月18日
　午後池田棟梁を招致し錦泉楼設計の件二階町裏長借屋建築の件堺町改築の件懇談
９月20日
　和田君来行堺町山谷所有家屋買売懇談あり
９月21日
　和田君来行堺町新道路開拓二付補助金申請の件町役場へ交渉したる顛末懇談
10月30日
　二階町裏埋立道路工事経過視察
11月26日
　池田君来行堺町家屋移籍に件
大正16年（昭和元年）１月19日
　朝高岡君二階町の裏井戸掘鑿の件
１月26日
　朝真木君来荘二階町裏道路補修に関する件
１月28日
　夕方和田高岡両君を松屋招致し二階町裏開墾工事終了に付慰労をなす
２月13日
　朝高岡君来荘二階町裏土地の件
３月１日
　高岡君来荘二階町裏宅地の件
３月６日
　昼過高岡君来荘二階町裏土地売買の件
３月10日
　二階町裏地□変換届を提出
3月11日
　高岡今村両君二階町裏土地分譲の
3月18日
　朝黒崎来荘二階町土地買受申旨件男子校北側土地譲渡の件□□にて現地視察

３月30日
　朝高岡君来荘山下土地の件
３月31日
　夜分高岡君来荘山下土地の件
4月2日
　朝高岡君来荘山下土地の件
4月3日
　林君来荘山下土地商工会へ融通の件
4月10日
　鶴山館に於ける明日より開催の□生展覧会視察山下の開墾を続て夕刻
　帰荘
5月7日
　朝高岡君来荘新開地売却の件
5月8日
　新開地一周
6月22日
　朝８時半銀行出頭郵便局工務課より山下新開地へ電柱建設の件交渉あり
昭和2年1月7日
　朝高山宇一郎君来荘新開地土地分譲の件
1月8日
　高岡君来荘二階町土地分譲の件（永田免吉）
2月12日
　竹内君来荘新開地焼失家屋に付
2月14日
　朝高岡君来荘新開地土地に関する件
2月21日
　北村君来訪新開地土地に関する件
3月2日
　夕方高岡君来荘新開地売約土地分割の件二付土地会社決算事ム二付夜半４時迄執務
4月22日
　新開地建築経過視察
5月27日
　夕食後新開地新築工事視察
8月17日
　夕食後新開地散策
9月18日
　夕食後新開地散策
11月4日
　新開地散策
11月11日
　昼食後高岡君同伴新開地高山写真館にて御大典記念のため撮影

竹器工場

大正6年5月17日
　夕方鉄砲町竹細工を視察
6月6日
　夕食後鉄砲町竹細工職場へ趣起細工要領聴取 10時半帰荘
10月19日
　鉄砲町竹細工屋へ立寄り籠材料仕上げの件二付懇談
10月21日
　菅貫一郎君竹細工の件二付来訪同伴鉄砲町に至り見学
11月6日
　夕方三船君大坂竹細工ヤ同伴来荘
　大正８年５月21日
　鉄砲町竹細工作業の件相談、本日より従事する事にする
5月24日
　朝那波和尚三男同伴来荘竹細工修業希望の由二付同道鉄砲町に趣起視察明日より同へ出張修業の事に取極む
8月18日
　鉄砲町竹細工工場地視察序に南新座売家視察
9月14日
　夕方鉄砲町細工工場視察
10月4日
　夕方鉄砲町竹器工場を視察
10月9日
　静岡より見本カゴ送り来る
10月24日
　竹器工□□の事懇談
10月27日
　木村君と船頭町竹細工場候補地視察
11月3日
　夕方西今町竹器工場敷地候補地視察鉄砲町に至り帰荘
11月9日
　夕方鉄砲町竹器工場視察

11月10日
朝木村君来荘静岡の籠職人来津セリ迪
11月27日
鉄砲町竹器工場視察
12月9日
鉄砲町竹器工場視察
12月14日
鉄砲町竹器工場視察
2月25日
町役場小枝君来行竹器見本の件二付
3月8日
た町竹器工場工程視察
3月17日
夜分木村久山□□来荘３丁め竹器店改造設計を成す竹器講習場視
察
3月18日
夕方鉄砲町竹器工場視察
3月20日
小林君とキノゑに会食共に寺町竹器工場の工程視察（水島同伴）次て
鉄砲町に立寄り
3月22日
木多君同伴橋本大助竹器工場視察
4月6日
竹器工場視察
5月18日
夕方山岡君と竹器工場視察
6月6日
昼小林君来店相伴れて竹器工場視察
7月4日
竹器工場視察
7月18日
筆保中村両君と竹器工場同伴視察
7月15日
竹器工場視察に関する件
7月16日
朝山口至一君来荘同伴して竹器工場視察
8月2日
竹器工場に立寄り
8月10日
夜分赤松君来荘竹の経営上に付懇談木村小林両君
来荘
8月11日
夕方三船水谷両君来荘竹の経営上に付懇談
8月12日
昼前山田君訪問竹の工場出資金3000円受取是にて会計金5000円と
なる
8月19日
夜分鉄砲町中村工場視察
8月20日
夕方竹器工場視察
9月1日
朝竹細工職人鈴木君来訪橋本を招致し工場経営上に付打合
9月6日
夕方鉄砲町中村工場視察
9月13日
安岡町鈴木工場及西寺町工場視察
9月14日
竹器視察の途に上る筈
9月18日
竹器工場に立寄り赤松君へセン借入の件交渉同時原料□買入の件二付
9月23日
本日より本家木□屋に於いて竹細工作業開始鈴木橋本等木村君木
多君と竹細工視察のために静岡□□の件懇談
10月4日
竹器工場に寄る
10月9日
夜５時半静岡着大東館に投ず
10月10日
陳列館見物
10月11日
榊原君来訪竹器界に於ける大勢聴取象箱入広告□持参同君の案内
にて象箱工場及製□工場視察
10月12日
竹器店視察夜７時30分京都付着
10月13日
８時起床朝食后木村君と竹器商森田□□□君を訪問竹器に関す

る体般の意見聴取
10 月 14 日
夕方又電車にて三の宮着竹器貿易商奥村君訪問（夜 9 時）竹器界
の状況視察が津
10月15日
朝奥村君宅に至り竹器見本観覧
10月16日
夜分三船君来訪竹器工場経営上の方針二付懇談
10月19日
夕方鈴木工場及三船工場視察
11月24日
鈴木君来荘竹器製造に関し懇談
11月25日
朝食後竹器工場訪問営業上の件に就き打合
12月4日
朝籠師（空白）来荘竹器製造に関し懇談
12月8日
竹の伝習生の件
大正10年 1 月29日
鈴木来荘竹器製造に就苦□□
1 月30日
午後三船君来荘竹器経営に就き懇談
2 月 5 日
竹器其他の件懇談
2 月28日
竹器工場へ貸付（50 円□□）
3 月11日
本朝竹器工場より注文の分□ 100 円齎す
3 月12日
夜分三船君来訪竹器予算書作成を嘱□
3 月28日
竹器経営上に付三船君の態度に就き懇談
4 月14日
3 時相伴れ鉄砲町工場視察
4 月22日
午后竹器工場に趣起鉄砲町を迂回
4 月30日
赤松君来荘竹器の件に付懇談
6 月 3 日
昼三船妻君来荘竹器工場勘定に付先月分不足 120 円□
帰途竹器工場に立寄り諸般の事務視察
6 月18日
夕方帰荘夜分竹器工場
6 月23日
11 時頃竹器工場に趣く
6 月29日
昼竹器工場を訪問次て鉄砲町工場を視察
7 月 3 日
昼前竹器工場出頭中村工場を□て帰る
7 月18日
昼食後鳥越君と竹器工場視察
8 月 9 日
頃安君来荘竹器の件懇談
9 月 3 日
鉄砲町竹器工場視察
9 月 9 日
帰途竹器工場に立寄る
9 月15日
鉄砲町中村工場視察
11月 2 日
鳥越君来荘相伴れて寺町竹器工場に至り次て鉄砲町工場に趣起竹籠 160 個の見本拵るを注文
11月 4 日
昼食后鉄砲町に中村工場訪問鳥越君注文の竹器工視察
11月18日
三船より工場職人退去の顛末を聞く工場引継書受取
11月24日
昼食後木多君同伴寺町竹器工場に趣起在庫品及□他の器具一切の引継を成す（三船不在）鉄砲町二工場視察
11月28日
朝津山銀行に関君訪問竹器経営上に付懇談
12月 3 日
木村君来荘三船君工場帖簿の引渡をなさず
12月 4 日
本日木多君竹器工場の□付を成す夕方立会い新工場に貸与すべきもの、区分をなす
12月 7 日
午後泉水刑事来荘竹器工場帖簿引渡尽力を依頼夕方小林君来荘

竹器工場売談成立セル旨

12月８日

竹器工場売却に付引渡に付懇談午後引渡を了し金3500円受渡小林君

当座へ入金

12月11日

朝木村君来訪竹器に関し

12月28日

昼過木村君大阪大□君同伴来荘竹器取引上の件懇談

大正11年１月５日

竹器、販売の件二付懇談早速200余円の注文ありしも木村君岡山へ趣起たり迪

１月11日

山根村長の紹介により竹器製作に付希望ありとの事に付同工場視

察途中木村君に会追又丶中山工場に至り懇談

１月23日

鉄砲町竹器工場視察

２月19日

昼過ぎより竹器工場視察

２月25日

竹器に関する件懇談

４月24日

県庁技手来行竹器経営上の件二付懇談

６月19日

昼迄竹器に関し懇談

６月26日

木村君来荘竹器販売上の件

７月30日

昼食後鉄砲町竹器工場視察

８月31日

朝食後鉄砲町竹器工場視察

９月23日

竹器商会へ趣きたるも木村君不在

10月１日

朝食後鉄砲町中村工場に趣起

10月16日

竹器職人の件に付由来聴取さる

10月17日

竹器工場職人問題に付次席警部に成行陳情調書へ検印

11月11日

竹器商会歴訪

11月13日

午前９時検事局の招命により出頭□井検事により竹器職人中川渉ノ身上に関し山口裁判所ヨリ照会□□に付調査を受け木村水谷橋本の諸君同様出頭

12月13日

木山及落合二ヶ所に竹器販売店を紹介してくれる

大正12年１月17日

竹器工場出資金問題に懇談予て差入れある借入金證書問題の顛末を請求）竹器工場共同出資なる事諒解を求め□事情徹底したる様子に付先方の要求に□い同工場共同出資を承認する事に同意を得□之を実行する事を契約す

２月４日

朝食後鉄砲町竹器工場視察

大正15年８月19日

竹細工同業組合組織に関する件

足袋会社

大正９年３月７日

夕方谷口君来荘足袋製造会社重役の件社長山田君専務木村君取締笠原神田大谷監査森本片山谷口

３月８日

朝食後安岡山田君訪問足袋製造会社創立に付持株の事及代表たる事の承認を受く

３月11日

足袋製造会社の件

３月25日

夕方福田ヤに山田木村（足袋）谷口の三君と会合足袋高原ヤ豊福の件に付協議

大正10年２月23日

終日籠城夕方より裏座敷に於いて足袋会社重役会開催神田笠原谷口山田君より提出の取締役辞任の件臨時総会招集請求の件附議12時過散会

４月４日

昼足袋会社の木村君来荘株件受取

４月25日

昼食後足袋会社に出頭配当金受取

10月15日

足袋会社重役問題に付懇談

大正12年４月７日

足袋会社木村君神田谷口両君来訪及□□改選足袋会社決算に関し懇談

12月19日

足袋会社木村君来荘年末経営難に付金融の件

12月29日

足袋会社木村君来荘金融の件

大正13年3月2日

足袋会社の件懇談

4月26日

夜分足袋会社木村君来荘今会社第５期決算書報告あり明日の総会

に関し及会社の処置方に付12時経過懇談

6月15日

昼食后津山足袋会社役員会協議会出席神田笠原木村谷口等の諸

君出席会社将来の方針に付協議種々研究の結果解散整理の事に衆

議一致これにて夕食

7月25日

11時頃より車上東新町津山足袋会社に出頭笠原神田森の諸君出

席この解散問題に付協議

9月1日

竹器尻に関し山田君交渉調停方を依頼

9月4日

竹器出資金問題に付懇談同伴共益会社に鳥越君訪問委細懇談を依頼し

銀行出頭

大正14年1月25日

津山足袋会社清算総会朝木村君（□□郎□）君来荘ツ山足袋会社清算上に関し総会欠席の旨同君を通して通告

10月29日

足袋会社総会に関する件

大正15年2月6日

鳥越君来行竹工共同経営□の件に付懇談此件1500円也を一時交付し

5000円この証書取戻方協□成立セん一□する事にする

まとめ

以上、大正８年から昭和２年まで安黒が手掛けた事業の一部について紹介した。

コロビ山とは何処にあった山なのだろうか。

大正13年３月16日、椿高下からコロビ山、北町、宮川、橋本町へと迂回とある。大正16（昭和元年）４月10日、田町の真木歯科からコロビ山、鶴山城の裏から表に迂回し、山下に散策している。また、津山出身の哲学者、出隆の著作集第６巻『哲学者の手記』の中に「6月8日ころび山の下の草原で、農家の子供の草を喰わせている牛を、子供に教わって、歩かせたり止めたりする。

牛追い、気晴らしなり、ごまかしなり、夕方、井戸と天神橋まで散歩」とあり、コロビ山が登場する。出隆はよく上之町の実家から鶴山城を通って田町を往復していた。

これらの事から、コロビ山は現在の津山文化センター南西側駐車場から田町東側一帯にかけて（行啓道路北側）の丘陵と考えられる。山というより丘と呼ぶ方がいいのかも知れない。現在では当時の姿を想像することはできない。昭和２年以降もコロビ山の開発は続行する。

行啓道路は、大正15年５月23日の皇太子殿下行啓のために敷設された。土地設計の話は、大正15年４月２日に突然記述が始まるが、それ以前の大正15年２月４日から日笠田地開墾の話の中で計画が進められたものと推察される。

山下、二階町、新開地の開発は、行啓道路新設を切掛けに、大正15年から開発が進んでいく。

城の堀も埋め立てられた。この間の事情については、大正15年７月16日、石垣についての協議、７月20日の石垣築造開始の記述しかなく、詳しいことは不明である。土地開発は何ヶ所も重なり合いながら進んで行った。

竹器工場は、鉄砲町、安岡町、西寺町、田町、東新町にあった。静岡からの籠職人を呼び寄せているが、その職人が刑事事件を起こしている。以後、昭和５年、竹工組合創立へと繋がる。

足袋会社は､大正９年から大正14年まで経営された。この他にも安黒がかかわった事業は、次のように多岐にわたる。

日の丸米肥会社・宮川味噌醸造・三徳麦販売・郡是製糸・高尾酒造会社・敷島瓦・中国蠶糸・美作薪炭会社・津山土地会社・大篠信用組合・新見大理石・敷島自動車・山陽信託会社・備作製金会社・廣福製紙会社・

神戸芦屋土地埋立及護岸工事・六甲越有馬電キ鉄道・牧酒造・加茂酒造・中国信託・曙路辺工事・堺町新道路開拓・山下住宅組合・林野木材会社・競馬場設置・煉瓦製造・奥津定期自動車・奥津錦泉楼再興・不動産売買（今町・美濃職人町・堺町・京町・田町警察署前埋立・今津屋橋畔・福岡村・川辺・高野・阿波山林・瀧本田地・上横野山林・梶並山林・広島山林・那岐山林・因幡山林・西大寺家屋・尼崎・熱海）・人工真珠・人工金・電燈布設運動等。

これらの会合、懇談は、おもに対鶴楼（福田屋）で行われているが、キノゑ、風月、福富、大津楼、曙等も利用されている。

翻刻にも大分慣れ、毎日の日記をめくっていくと事業内容の多さに驚かされる。その当時の様子が、目の前で起こっているような錯覚になる。小稿を記すにあたっては佐野綱由、行田裕美の両氏にはご助言をいただきました。末筆ではありますが御礼を申し上げます。

大正時代の行啓道路（西から）

大正時代のコロビ山（北から）

現在の行啓道路（同上）

現在のコロビ山（同上）

印　刷　仕　様

紙　　質	表紙	レザッククリーム　175kg
	本文	ニューエイジ　　90kg
Ｄ　Ｔ　Ｐ	ＯＳ	Windows 7　Ultimate
	DTP	Adobe　Indesign　CS4
	図版作成	Adobe　Illustrator　CS4
	写真調整	Adobe　Photoshop　CS4
	Scanning	35㎜・6 × 7film　EPSON　GT － X 970
		図面類　GRAPHTEC　IMAGESCANNER　TS7000
使用 Font	モリサワ	OpenType　基本７書体（じゅん Pro、リュウミン ProL-KL、見出ゴ MB31Pro、見出ミン MA31Pro、太ゴB 101Pro、太ミン A101Pro、中ゴシック BBBPro）
画像原稿	階調画像線数は 175 線	
印　　刷	印刷所へは、ＰＤＦ　Ｘ－ 1a（2001）で書き出して入稿	

年報　津山弥生の里　第 17 号（平成 20 年度）

2010 年 3 月 25 日発行

発行　津山市教育委員会
　文化財課
〒 708 － 0824
岡山県津山市沼 600 － 1
TEL0868－24－8413　FAX0868－24－8414
印刷　二葉印刷（有）